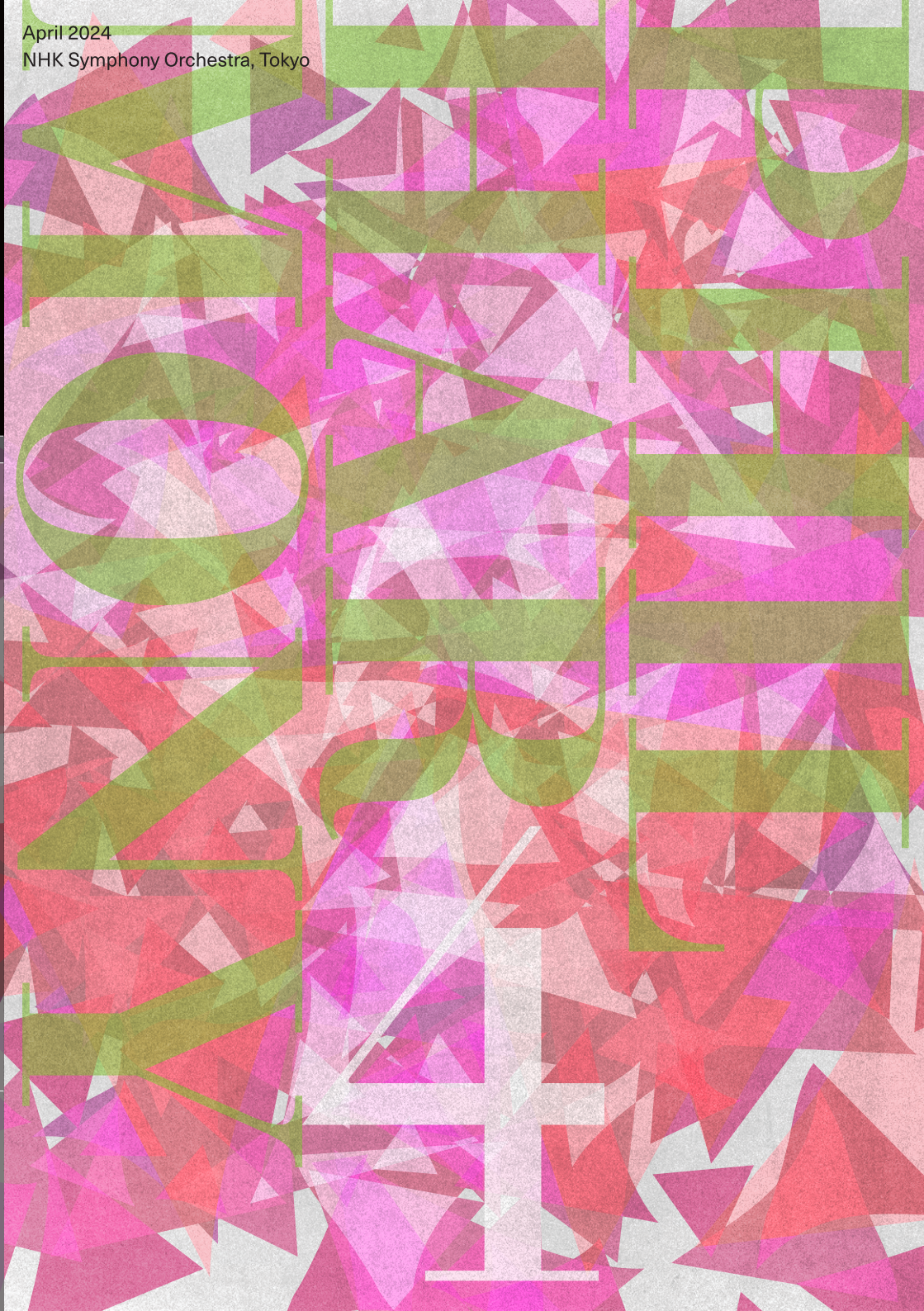


April 2024

NHK Symphony Orchestra, Tokyo



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

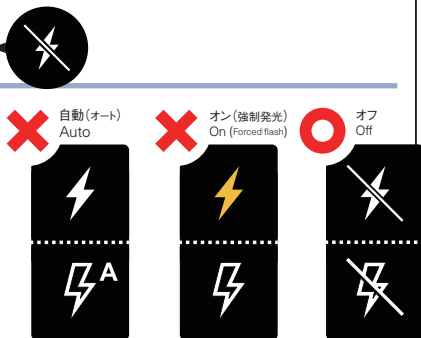
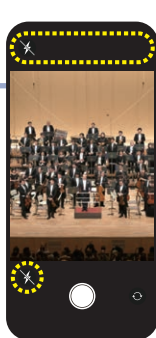


「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください







こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

-  公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.
-  私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.
-  発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.
-  演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

APRIL 2024

4

3



NHK交響楽団定期公演 2024-25シーズンプログラム (2024年9月~2025年6月)

13

チケットのご案内 (定期公演 2024年9月~2025年6月)

18

[公演プログラム] **Aプログラム**

23

[公演プログラム] **Bプログラム**

29

[公演プログラム] **Cプログラム**

33

[シリーズ] **N響百年史** | 第45回 | もしかして貴志康一?

片山杜秀

37

2024年5月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から

39

チケットのご案内 (定期公演 2023年9月~2024年6月)

40

2023-24定期公演プログラム

41

特別公演 / 各地の公演

47

NHK交響楽団メンバー

48

特別支援・特別協力・賛助会員

52

曲目解説執筆者

53

Information / お詫びと訂正

54

みなさまの声をお聞かせください!

55

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

56

Program A

59

Program B

63

Program C

65

The Subscription Concerts Program 2023-24

66

The Subscription Concerts Program 2024-25

69

N響関連のお知らせ

70

N響の社会貢献

71

役員等・団友

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck



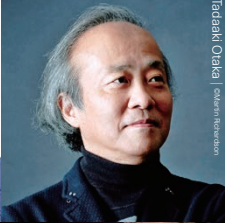
Kazuki Yamada | Osaka University



Juanjo Mena | Osaka University



Herbert Blomstedt | Osaka University



Tadaaki Otaka | Osaka University



Vladimir Fedoseyev | Osaka University



Tatsuya Shimono | Osaka University



Petr Popelka | Osaka University



Tugan Sokhiev | Osaka University



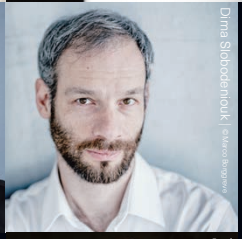
Andris Ozols-Estrada | Osaka University



Gidon Siskin | Osaka University



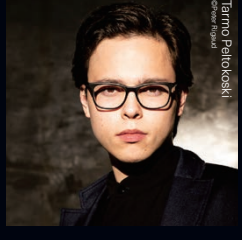
Fabio Luisi | Osaka University



Dima Slobodeniuk | Osaka University



Paavo Järvi | Osaka University



Tarmo Peltola | Osaka University

NHK 交響楽団定期公演 2024-25シーズンプログラム (2024年9月~2025年6月)

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。
オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2024

09 September

第2016回

9/14 ± 6:00pm

9/15 日 2:00pm

ブルックナー芸術の金字塔《第8番》で新シーズン開幕

ブルックナー生誕200年

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(第1稿/1887年)

指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

10 October

第2020回

10/19 ± 6:00pm

10/20 日 2:00pm

オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる

オネゲル／交響曲 第3番「礼拝」

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

11 November

第2022回

11/9 ± 6:00pm

11/10 日 2:00pm

山田和樹 \響定期に凱旋! お家芸のレパートリーを披露

ルーセル／バレエ音楽「バックスとアリアヌ」作品43

—組曲 第1番

バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番

ラヴェル／優雅で感傷的なフルツ

ドビュッシー／管弦楽のための「映像」—「イペリア」

指揮:山田和樹

ピアノ:フランチェスコ・ビエモンテージ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024

12 December

第2025回

11/30 ± 6:00pm

12/1 日 2:00pm

ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる

シェーンベルク生誕150年

ワグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」

—「前奏曲と愛の死」

R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、

「なつかしいおもかげ」作品48-1*、

「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、

「あすの朝」作品27-4*

シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:クリスティアーネ・カルク*



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。

2025
01 January
第2028回
1/18 土 6:00pm
1/19 日 2:00pm

ソビエフが《レニングラード交響曲》に
万感の思いを込める
ショスタコーヴィチ/
交響曲 第7番 八長調 作品60「レニングラード」
指揮:トウガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
02 February
第2031回
2/8 土 6:00pm
2/9 日 2:00pm

チェコが生んだ新時代の巨匠ボベルカが、響デビュー
ツェムリンスキー／シムフォニエッタ 作品23
R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11
ドヴォルザーク／交響詩「のぼと」作品110
ヤナーチェク／シムフォニエッタ
指揮:ペトル・ボベルカ
ホルン:ラデク・ハボラーク



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025
04 April
第2034回
4/12 土 6:00pm
4/13 日 2:00pm

ベルリオーズとプロコフィエフ
通底するテーマは「さすらいの人」
ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
プロコフィエフ／交響曲 第4番 八長調
作品112(改訂版/1947年)
指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ヴォオラ:アントワーン・タメスティ*



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
05 May
第2036回
4/26 土 6:00pm
4/27 日 2:00pm

ヨーロッパ公演に先駆け
勝負曲を定期公演で披露
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲
マーラー／交響曲 第3番 二短調
指揮:ファビオ・ルイージ
メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ
児童合唱:NHK東京児童合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

*5月定期公演Aプログラムは
4月に開催いたします。

2025
06 June
第2039回
6/7 土 6:00pm
6/8 日 2:00pm

巨匠が魂を込めて振る
チャイコフスキー最後の交響曲
リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／バガニニの主題による狂詩曲
作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調
作品74「悲愴」
指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエフ*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

聴きごたえ十分の楽曲で ライブでしか体験できない時空間に浸る

西川 彰一 | NHK交響楽団 芸術主幹 ※B・Cプログラムの同項も執筆

鑑賞スタイルが多様化した今日、ホールに足を運んで音楽を聴くことは、決して当たり前のこととは言えなくなりました。しかし逆にそういう時代だからこそ、生演奏に触れることの価値は、ますます高まっているようにも思われます。

[Aプログラム]では、秋冬春のシーズンそれぞれに長大な交響曲を配するなど、聴きごたえ十分の楽曲を揃えました。ライブでしか体験できない時空間に浸って頂ければ幸いです。

首席指揮者ルイーゼは、ブルックナーの《交響曲第8番》(9月)で、就任3シーズン目の開幕を迎えます。通常の改訂稿ではなく、更に10分ほど長い「1887年初稿版」を使うのが今回のポイント。ルイーゼ曰く「作曲家が思いの丈を存分に語った」初稿版での演奏は、極めて貴重な機会と言えます。

ブルックナーと双璧をなす企画が、5月のマーラー《交響曲第3番》です。格式あるマーラー・フェスティバルに、アジアから唯一招待されたN響が、アムステルダムでの公演に先立ち、一足早く日本の皆様へに気迫のこもった演奏をお届けします。

ルイーゼは12月(11/30、12/1開催)にも指揮台に立ち、生誕150年のシェーンベルクを取り上げます。初期の代表作《ベレアスとメリザンド》に、同じく禁断の愛をテーマにしたワーグナー《トリスタンとイゾルデ》、欧米で話題のソプラノ、カルクが歌うR. シュトラウスの歌曲と、後期ロマン派の濃密な世界をご堪能頂けることでしょ。

桂冠名誉指揮者ブロムシュテットは、各楽章に宗教的な標題を持つオネゲル《交響曲第3番》と、バッハのカンタータを主題に用いたブラームス《交響曲第4番》を組み合わせます(10月)。信仰とともに人生

を歩んだマエストロらしい選曲です。

一方、ロシアのフェドセーエフが指揮するのは、チャイコフスキー最後の交響曲《悲愴》をメインとする、堂々たる名曲プログラム(6月)。

90歳を過ぎた巨匠たちは、昨年の公演をキャンセルしましたが、愛するN響との共演に今なお、衰えを知らぬ意欲を示しています。無事に来日できることを願ってやみません。

4月はパーヴォ・ヤルヴィ指揮で、詩人の巡礼を描いた《イタリアのハロルド》と、バレエ《放蕩息子》を引用したプロコフィエフ《交響曲第4番》。“遍歴の旅”にまつわる作品とともに、世界の檜舞台で活躍する名誉指揮者が、「ホームのひとつ」と呼ぶN響に2年ぶりに帰ってきます。

常連のソヒエフは、今シーズンも1月に登場します。祖国ロシアの行状に心を痛め、ポリショイ劇場を去ったソヒエフですが、辞任直後に招かれたザルツブルク復活祭音楽祭で「今こそ演奏すべき」と背中を押されたのが、ショスタコヴィチ《交響曲第7番「レニングラード」》でした。戦争の惨禍の先に希望はあるのか。国境を越えて普遍的な問いを投げかける大曲です。

さらにはバーミンガム市響の山田和樹(11月)と、プラハ放送響のポペルカ(2月)。個性豊かなオーケストラの首席指揮者として音楽界をリードする2人が、近現代の意欲作に挑みます。フランスの楽団との共演も多い山田和樹は、持ち前の色彩感を生かしたラヴェル、ドビュッシー。ポペルカは、金管のファンファーレでおなじみのヤナーチェク《シンフォニエッタ》など、祖国チェコゆかりの力強いレパートリーでN響デビューを飾ります。

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
豪華なソリストたちの至芸にも期待。

サントリーホール | 木 7:00pm 金 7:00pm

※本シーズンより日程を「木曜7:00pm/金曜7:00pm」に変更させていただきます。

現在水曜日の定期会員の方は2024-25シーズンでは木曜日に、現在木曜日の方は金曜日に現在と同じ座席をご用意します。該当する定期会員の方への詳しいご案内は、2024-25シーズンの定期会員券更新手続きの際にお知らせします。

Autumn

2024

09 September

第2017回

9/19 木 7:00pm

9/20 金 7:00pm

ルイーゼと遡る ドイツ・オーストリア 王道の系譜

シューベルト/イタリア風序曲 第2番 八長調 D. 591

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:ファビオ・ルイーゼ

ピアノ:エレース・グリモ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024

10 October

第2019回

10/10 木 7:00pm

10/11 金 7:00pm

プロムシュテットが贈る北欧音楽の花束

シベリウス/交響詩「4つの伝説」作品22

—「トゥオネラの白鳥」

ニルゼン/クラリネット協奏曲 作品57

ベルワルド/交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット

クラリネット:伊藤 圭(N響首席クラリネット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024

11 November

第2024回

11/21 木 7:00pm

11/22 金 7:00pm

透徹した音楽性が際立つスロボデニューク

母国ロシアの作品で定期初登場

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

プロコフィエフ/バレエ音楽「石の花」

—「銅山の女王」「結婚組曲」

ストラヴィンスキー/3楽章の交響曲

指揮:ディマ・スロボデニューク

ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2024

12 December

第2026回

12/5 木 7:00pm

12/6 金 7:00pm

ルイーゼが屈指の名曲で掘り起こす スラヴ音楽の魅力

スメタナ/歌劇「売られた花嫁」序曲

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

ピアノ:ネルソン・ゲルナー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

01

January

音の魔術師のタクトが紡ぎだす
東欧の情緒に身をゆだねる

第2030回

1/30 木 7:00pm

1/31 金 7:00pm

ムソルグスキー(リャードフ編)／
歌劇「ソロチンスクの市」―「序曲」「ゴバック」
バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
ドヴォルザーク／交響曲 第8番ト長調 作品88指揮:トウガン・ヒエフ
ヴァイオリン:郷古 廉(N響第1コンサートマスター)

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

02

February

世界の音楽界が熱視線を注ぐ
若き巨匠によるドイツ・プログラム

第2032回

2/13 木 7:00pm

2/14 金 7:00pm

モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、
アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、
交響曲 第25番ト短調 K. 183、レチタティーヴォと
アリア「私のうろわしい恋人よ、さようなら
―とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528*シューマン／交響曲 第1番変ロ長調 作品38「春」
指揮:ペトル・ポベルカ メゾ・ソプラノ:エマ・ニコロフスカ*

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Spring

2025

04

April

《春の祭典》に続きパーヴォ&N響が贈る
ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾

第2035回

4/17 木 7:00pm

4/18 金 7:00pm

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」
(全曲/1947年版)
ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」
作品33bis

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

05

May

軋みあう“生と死”を超越し その彼方の光へ

マラー・フェスティバル2025 演奏曲(マラーのみ)

第2037回

5/1 木 7:00pm

5/2 金 7:00pm

ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マラー／交響曲 第4番ト長調*指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:諏訪内晶子
ソプラノ:森 麻季*

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

06

June

チェリビダッケの直弟子メナのブルックナー《第6番》

第2040回

6/12 木 7:00pm

6/13 金 7:00pm

イベール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調指揮:ファンホ・メナ
フルート:カール・ハインツ・シュッツ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)

一般	S	A	B	C	D
	¥91,800	¥76,500	¥61,200	¥49,725	¥42,075
ユースチケット	S	A	B	C	D
	¥45,900	¥38,250	¥30,600	¥24,858	¥21,033

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

巨匠たちが自らのバックグラウンドを打ち出したプログラムと 屈指のソリストたちの妙技を堪能する

サントリーホール豊かな音響空間を活かしながら、定番の名曲から硬派なシンフォニーまで、バラエティに富んだ曲目をお送りします。N響自慢の首席奏者たちを交えながら、若手を中心とする世界屈指のソリストたちが月替わりで登場し、得意の協奏曲を弾くのも、[Bプログラム]の大きな特徴です。

豪華指揮者陣が選んだプログラムは、各自のバックグラウンドをはっきり打ち出したものとなっています。

ブロムシュテットが指揮するのは、自身のルーツである北欧の音楽です(10月)。ベルワルドは師匠筋にあたる19世紀スウェーデンの作曲家で、マエストロは長年、そのユニークな作品の普及に努めてきました。彼にとってはシベリウスやニルセンも恩師の友人であり、決して歴史上の人物ではないのです。数十年にわたり、ブロムシュテットからスカンジナビアの生きた音楽語法を伝授されたことは、今更ながらN響にとって、大きな財産という他ありません。

チェコ出身の新鋭ボベルカは、指揮者に転身するまで、ドレスデン・シュターツカペレのコントラバス奏者でした。当地で活躍したウェーバーやシューマンは、オーケストラのDNAに組み込まれた作曲家と言っても過言ではないでしょう。ついでに言えば、モーツァルトのコンサートアリアも、ドレスデン旅行の年に作曲されたものです。ボベルカとN響、それぞれが受け継いできたドイツ音楽の遺産は、どんなマッチング効果を生むのでしょうか(2月)。

3度目の登場となるメナは過去2回、故郷スペインの作品を指揮しました。しかし彼は何を隠そう、伝説の名指揮者チェリビダッケの直弟子であり、その十八番であったブルックナー、中でも《第6番》に格別の思い入れを持っています。お国物以外のメナ

の“もうひとつの本領”が日本で発揮される、画期的な機会と言えます(6月)。

定期初登場のスロボデニユークと、名誉指揮者のパーヴォ・ヤルヴィは、ともにプロコフィエフとストラヴィンスキーを取り上げます。切れ味鋭い解釈に定評のあるスロボデニユークの《3楽章の交響曲》(11月)、パッションみなぎるパーヴォの《ペトルーシカ》(4月)は、それぞれの個性を反映した、印象深いものとなるはずです。

首席指揮者ルイージは、ベートーヴェンやマーラーなど、ウィーンの伝統に根差した音楽をこのシリーズの柱に据えました。意外にも《展覧会の絵》(12月)は、長いキャリアを通じて初めての挑戦です。

ソリストに目を向けると、久々の共演となるグリモーのシューマン(9月)、2017年の国内ツアーが各地で絶賛されたボリソグレブスキーのチャイコフスキー(11月)、実力者ゲルナーのラフマニノフ(12月)、ボベルカの信頼厚いニコロフスカのモーツァルト(2月)、10代で出演した英国ブロムスでの演奏が評判を呼んだグローヴナーのブリテン(4月)、リヨン音楽院で学んだシュツツのイェーブル(6月)など、錚々たる顔ぶれが自信のあるレパートリーを披露するのは、なかなかの壮観です。

首席クラリネット奏者の伊藤圭(10月)、第1コンサートマスターの郷古廉(1月)もソロで出演し、高度な技巧を要する難曲に挑みます。

ルイージと共演するのは、日本を代表するプリマドンナ、森麻季(5月)。ベルクを弾く諏訪内晶子(5月)は直後のヨーロッパツアーにも同行し、各地で熱演を聴かせてくれることでしょう。

2024-25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

多彩なマエストロ、
ソリストたちが屈指の名曲でその個性を輝かせる。
2時間のフルプログラムで、交響曲と舞台音楽の“粋”を聴く。

NHKホール | 金 7:00pm 土 2:00pm

※ 本シーズンより「休憩あり・2時間程度」の公演とさせていただきます。

※ 金曜日の開演時刻を7:00pmに変更させていただきます(土曜日は従来通り2:00pm開演)。

Autumn

2024

09

September

第2018回

9/27

金 7:00pm

9/28

土 2:00pm

英国で評判の《白鳥の湖》を尾高忠明がN響で初披露

チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲

作品33(フィッツェンハーゲン版)*

チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」

作品20(抜粋)

指揮:尾高忠明

チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2024

10

October

第2021回

10/25

金 7:00pm

10/26

土 2:00pm

プロムシュテットに導かれて挑む
シューベルト最高峰の交響曲2作

シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」

シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944

「ザ・グレート」

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024

11

November

第2023回

11/15

金 7:00pm

11/16

土 2:00pm

世界を席巻するオロスコエストラダ
満を持してN響初登場

ワグナー／歌劇「タンホイザー」序曲

ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変口長調 作品94

ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 二短調 作品47

指揮:アンドレス・オロスコエストラダ

トランペット:ラインホルト・フリードリヒ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024

12

December

第2027回

12/13

金 7:00pm

12/14

土 2:00pm

《一千人の交響曲》に続く
ルイージ&N響の「ファウスト」シリーズ

リスト／交響詩「タッソー」

リスト／ファウスト交響曲*

指揮:ファビオ・ルイージ

テノール:ジェームズ・マッコークル*

男声合唱:東京オペラシンガーズ*



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025

01

January

第2029回

1/24 金 7:00pm

1/25 土 2:00pm

世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神

ストラヴィンスキー／組曲「ブルチネッタ」
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮：トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025

02

February

第2033回

2/21 金 7:00pm

2/22 土 2:00pm

下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲
サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調
作品61スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲
オッフェンバック（ロザンタール編）／
バレエ音楽「パリの喜び」（抜粋）

指揮：下野竜也 ヴァイオリン：三浦文彰



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025

04

April

4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます

2025

05

May

第2038回

5/30 金 7:00pm

5/31 土 2:00pm

オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス！
N響定期初登場、藤田真央にも注目！シューベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡（きらきら星）の主題による変奏曲
作品25*R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による
交響的幻想曲

R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲

指揮：ギエドレ・シュレキーテ
ピアノ：藤田真央*

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025

06

June

第2041回

6/20 金 7:00pm

6/21 土 2:00pm

2000年生まれの新新星 ペルトコスキのマーラー《巨人》

コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」指揮：タルモ・ペルトコスキ
ヴァイオリン：ダニエル・ロザコヴィッチ

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(8回)

一般	S ¥68,000	A ¥57,800	B ¥44,200	C ¥36,720	D ¥29,240
ユースチケット	S ¥34,000	A ¥27,200	B ¥21,080	C ¥17,336	D ¥10,200

※2025年5月のヨーロッパ公演実施にともない、2025年4月公演を休止するため、本シーズンは全8回となります。

シーズン会員券
(Autumn/Winter) (3回)

一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
ユースチケット	S ¥13,425 <td>A ¥10,740 <td>B ¥8,325 <td>C ¥6,849 <td>D ¥4,029</td> </td></td></td>	A ¥10,740 <td>B ¥8,325 <td>C ¥6,849 <td>D ¥4,029</td> </td></td>	B ¥8,325 <td>C ¥6,849 <td>D ¥4,029</td> </td>	C ¥6,849 <td>D ¥4,029</td>	D ¥4,029

シーズン会員券
(Spring) (2回)

一般	S ¥17,900	A ¥15,216	B ¥11,636	C ¥9,666	D ¥7,698
ユースチケット	S ¥8,950 <td>A ¥7,160 <td>B ¥5,550 <td>C ¥4,566 <td>D ¥2,686</td> </td></td></td>	A ¥7,160 <td>B ¥5,550 <td>C ¥4,566 <td>D ¥2,686</td> </td></td>	B ¥5,550 <td>C ¥4,566 <td>D ¥2,686</td> </td>	C ¥4,566 <td>D ¥2,686</td>	D ¥2,686

オペラ・バレエなどの劇作品、 人気の交響曲を存分に堪能する

今シーズンの[Cプログラム]は、オペラ・バレエなどの劇作品と、ポピュラーな交響曲を基本コンセプトにしました。話題性のあるソリストも登場し、長年の定期会員の皆様はもちろん、初めての方も気後れせずに楽しんで頂ける内容を目指しています。

最初に登場するのは正指揮者・尾高忠明。BBC ウェールズ響の首席指揮者として、現地イギリスでの演奏が好評を博したチャイコフスキー《白鳥の湖》を、こだわりの詰まったダイジェスト版でお送りします。首席チェロ奏者・辻本玲が弾く《ロココ風の主題による変奏曲》と、人気曲どうしの組み合わせです(9月)。

御年97歳のブロムシュテットは、ライフワークとして取り組んできたシューベルトの交響曲。その最高傑作である《未完成》と《ザ・グレート》は、巨匠の集大成として、未永く記憶に残る名演となる予感がします(10月)。

続いてはコロンビア出身のオロスコ・エストラダ。ウィーン交響楽団の首席指揮者を退任し、このほどN響への初招聘が実現しました。メインは彼の強い希望でジョスタコーヴィチ《交響曲第5番》。大御所フリードリヒを迎えたヴァインベルク《トランペット協奏曲》とともに、重量級のプログラムで勝負します(11月)。

ルイージが指揮するリストの《タッソー》と《ファウスト交響曲》は、どちらもゲーテの戯曲をもとにしており、昨年のマーラー《一千人の交響曲》の続編とも言える内容です。劇的表現力に富んだ音楽つきの作品はルイージの最も得意とするところで、マーラーに続く迫力満点の演奏が繰り広げられるでしょう(12月)。

ソヒエフ指揮の《ブルチネッラ》は、ベルゴレージなど18世紀イタリア音楽を、20世紀のストラヴィンスキーが換骨奪胎したもの。ブラームス《交響曲第1番》との組み合わせは一見奇異な感じもしますが、19世紀に書かれたこの曲を橋渡しに、3世紀にまたがる音楽史の流れをたどることができるでしょう。もっともそんな理屈は抜きにして、今を時めく名指揮者の棒さばきに身を委ねるだけでも十分です(1月)。

翌月は打って変わって、下野竜也がいざなうフランス・オペレッタの世界。有名なスッペ《「軽騎兵」序曲》に始まり、おなじみのカンカンを含むオッフエンバックの名曲セレクション《パリの喜び》まで、軽快で華やかな音楽のオンパレードです。同時代の傑作、サン・サーンス《ヴァイオリン協奏曲第3番》では、人気の三浦文彰がソロを務めます(2月)。

才能豊かな若手の起用も、今季Cプロの特徴のひとつ。リトアニア出身、30代半ばのシュレキータは、ヨーロッパのオペラハウスを中心に活躍中。歌劇を原作とするR. シュトラウスの2作品で、彼女の巧みなバトンテクニックが発揮されるでしょう。

共演する藤田真央は、瞬間に世界中で引っ張りだこの存在になりました。ドホナーニの曲はあまり知られていませんが、誰もが知る旋律を主題に用いています(5月)。

シーズンの締めくくりは、2000年生まれの新星ヘルトコスキ。トゥールーズ・キャピタル劇場管弦楽団の音楽監督をはじめ、早くも一流オケのタイトルを次々手に入れています。大親友ロザコヴィッチとのコロンゴルト、若者らしい躍動感に満ちたマーラー《巨人》にご期待ください(6月)。

チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は公演あたりの単価

※今シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

対象拡大

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm 定休日：土・日・祝日	<ul style="list-style-type: none"> ●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

THE
NEW

iX2



& X2



駆けぬける喜び

FOR MORE INFORMATION



NEW iX2



NEW X2

bmw.co.jp BMW カスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437

※写真の車は日本仕様とは異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。

世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER



www.ana.co.jp



Artist Series
Gustav Klimt
“Tree of Life”

Model 214VC

全世界限定25台

88鍵盤 / 奥行き 214cm / 間口 151cm / 高さ 102cm / 重量 420kg オーストリア製

Bösendorfer

<https://www.boesendorfer.com/ja>

株式会社ヤマハミュージックジャパン ベーゼンドルファー・ジャパン





この活動を広めるために作成した
ロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの 18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと[※]

ぴあ

※ 1998年に発表した、
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第2007回

NHKホール

4/13 土 6:00pm

4/14 日 2:00pm

指揮

マレク・ヤノフスキ

コンサートマスター

ウォルフガング・ヘントリヒ

◆ウォルフガング・ヘントリヒ：1996年よりドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めるかたわらソリストとしても同楽団と共演。また数多くのCD録音でもその才能を発揮している。ドレスデン・フィル室内楽団の指揮者、ドレスデン弦楽五重奏団とカールス・アンサンブルのリーダー、2013年からはドイツ弦楽フィルハーモニーの首席指揮者を務める。ドレスデン音楽大学の教授として後進の指導にもあたっている。使用楽器はドレスデン・フィルハーモニー協会より貸与されている1725年製サント・セラフィン。

シューベルト

交響曲 第4番 ハ短調 D. 417

「悲劇的」[30']

- I アダージョ・モルト—アレグロ・ヴィヴァーチェ
- II アンダンテ
- III メヌエット：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- IV アレグロ

— 休憩 (20分) —

ブラームス

交響曲 第1番 ハ短調 作品68[45']

- I ウン・ボーコ・ソステヌート—アレグロ
- II アンダンテ・ソステヌート
- III ウン・ボーコ・アレグレット・エ・グラチオーソ
- IV アダージョ—アレグロ・ノン・トロポ、マ・コン・プリオ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください

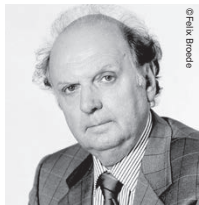


こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

マレク・ヤノフスキ (指揮)



歳を重ね、ますます円熟味を増しているドイツ音楽のオーソリティ。2016年、77歳にしてパイロイト音楽祭にデビューし、ワーグナーの《ニーベルングの指環》4部作を指揮。2017年に23年ぶりにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会に登場すると、以後、毎年のように同楽団に客演している。まさに大器晩成の巨匠である。

1939年、ワルシャワ生まれ。ドイツで育ち、ケルン音楽大学でウォルフガング・サヴェリッシュに師事。フライブルクやドルトムントの歌劇場、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団などのオーケストラのシェフを歴任。1980年代前半にはドレスデン国立歌劇場管弦楽団と《指環》全曲を録音した。

NHK交響楽団との初共演は1985年。東京・春・音楽祭において、2014年からN響と《指環》4部作に1年1作取り組み、好評を博す。その後も《ニュルンベルクのマイスタージンガー》などワーグナー作品を共演。定期公演では2017年のベートーヴェン《交響曲第3番「英雄」》や2022年のシューベルト《交響曲第8番「ザ・グレート」》で見事な成果をあげる。今回、厳格な音楽作りで知られるヤノフスキがN響とともにどんなブラームスの《交響曲第1番》を繰り広げるのか非常に楽しみである。

[山田治生／音楽評論家]

Program Notes | 小宮正安

「ハ短調(伝統的に「究極の悲しみ」を表現する調)」「ウィーン」「青春の炎」「ロマン派」……。完成年については60年の隔たりがあるものの、フランツ・シューベルト(1797～1828)の《交響曲第4番》とヨハネス・ブラームス(1833～1897)の《交響曲第1番》との間には、いくつもの共通点……。さらには連続性が存在する。ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770～1827)が切り拓いた新たな地平を押し広げた2つの作品を通じ、あらためて「交響曲」を聴く意味が問いかけている。

シューベルト

交響曲 第4番 ハ短調 D. 417「悲劇的」

1816年にこの作品を完成した19歳のシューベルトにとって、強烈な影響力のあった人物。それこそがベートーヴェンであり、またハ短調を基調とした当交響曲も、同じくハ短調で書かれたベートーヴェンの《序曲「コロラン」》(1807)や《交響曲第5番》(1808)

の存在を抜きには考えられないものとなっている。

ただし、ベートーヴェンに対するシューベルトの姿勢には、崇拜と困惑が相半ばしていた。ちょうどこの作品を作っていた頃の彼のベートーヴェン評は次のようになる。曰く彼の曲は、「悲劇的なものと喜劇的なもの(中略)、英雄的なものと犖猛なもの(中略)を一緒くたにし、取り違え、区別しない奇怪さ」そのものであると……。

むしろシューベルトは、モーツァルト(1756~1791)の作品を理想としていた節がある。まただからこそ、シューベルト自身この交響曲に対し、「悲劇的」というタイトルを与えたのだろう。つまり、モーツァルトの短調の交響曲にも通じるような古代ギリシア悲劇の基調を成す崇高な悲しみが、彼の念頭にあったと考えられる。

だが当作品には、単にそれだけにとどまらない、ロマン派につながる暗い情念も滾っている。衝撃的な序奏部から始まり、ソナタ形式というフォーマットだからこそ可能な焦燥感や切迫感に溢れた**第1楽章**。**第2楽章**は緩やかなテンポに変わり、調性も長調(変イ長調)となるものの、第1楽章の悪夢が随所でフラッシュバックし、不安な世界が続く。

さらに「メヌエット」と題されているものの、スケルツォのテンポで、しかも3拍子であるか否かも定かならないリズムを基本とする**第3楽章**。そして作品の結論ともいえる**第4楽章**は、第1楽章の世界をさらにどす黒く凝縮したかのような世界に他ならない。

シューベルトが生きた19世紀前半の時代は、フランス革命が泥沼に陥り、保守反動の嵐が吹き荒れていた。政治的な自由を奪われ、厳しい思想統制のもとに置かれていたシューベルトをはじめとする若者たち。その心の呻きが、この異形ともいえる交響曲の背後にはある。

作曲年代	1815年頃~1816年
初演	不明(オットー・ハトヴィヒ指揮による音楽愛好家のオーケストラによる演奏により、ウィーンで初演されたと推定される)
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

ブラームス

交響曲 第1番 ハ短調 作品68

ハンブルクに生まれ、現在のドイツを中心に活動を営んでいたブラームスは、30歳直前からウィーンへ本拠地を移してゆく。数多の重要な先達音楽家が活躍したウィーンは、温故知新を重んじる彼にとって憧れの都市だった。

ただしそうしたウィーンの前代は、ブラームスにとって重圧となる。特に尊敬する先達であるベートーヴェンが新たな道を切り拓いた「交響曲」は、彼の創作意欲を掻き立てると同時に、作曲の筆を滞らせる曲者のジャンルだった。こうしてドイツにいた頃から通算すると20年あまりの歳月をかけ、ついに1876年《交響曲第1番》は完成、初演された(しか

しさらにその後も、細かな改訂作業が続けられた)。

なおこの作品は、ウィーンの音楽評論の重鎮ハンスリック(1825~1904)などから、ベートーヴェンの流れを汲む偉大な交響曲と絶賛される。たしかに苦悩に満ち満ちた第1楽章に始まり、第4楽章が輝かしい勝利の凱歌で終わるという構成は、例えばベートーヴェンの《交響曲第5番》に聞かれる「暗から明へ」の道のりを彷彿させる。しかも交響曲の結論部分ともいえる第4楽章には、ベートーヴェンの《交響曲第9番》に登場する〈歓喜の歌〉を思わせる主題さえ出現する。

だがブラームスは、ベートーヴェン作品のコピーをしたわけではない。たとえば3部構成からなる緩徐楽章の第2楽章は、最初はオーボエの、最後はホルンやオーボエの響きに彩られたヴァイオリンの独奏による、憧れや感傷に満ちたメロディを基本とし、いわばこれだけでロマンティックな管弦楽のための小品といった趣である。あるいは第3楽章は、ベートーヴェンをはじめとする古典派の交響曲のように何らかのスタイルの舞曲を基本とせず、むしろ若き日のブラームスが私淑したシューマン(1810~1856)の作品のごとく、幻想的な間奏曲といった性格を帯びている。

さらに第4楽章の序奏部の後半、ホルンによって朗々と奏でられる旋律は、亡き恩人シューマンの妻であり、一時期ブラームス自身が恋心を抱いていたクララ・シューマン(1819~1896)に宛てた、私的な手紙の中にも登場したもの。それを踏まえると当交響曲自体、その堂々たる構えとは裏腹に、何らかの理念を声高に発信するベートーヴェン型の作品とは異なって、ロマン派の特徴である私小説的要素を具えているとも考えられる。

ブラームスが移り住んだ当時のウィーンは、中世以来の古い市壁が取り壊され、世界でも有数の近代都市へ変貌を遂げつつあった。そして彼自身、ベートーヴェンを敬愛しつつ、その先をゆく交響曲の可能性をこの作品によって切り拓き、音楽史に新たな1ページを加えていったのである。

作曲年代	1855年頃~1876年
初演	1876年11月4日、カールスルーエ、フェリックス・オットー・デッツフ指揮、カールスルーエ宮廷管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

A
2024, APRIL
[第2007回]

石橋を20年たたいて渡る

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833–1897)

バッハ、ベートーヴェンと並び「三大B」とも称される、ドイツの作曲家。ブラームスは、自分が生まれるより前に世を去った大作曲家ベートーヴェンの遺した9つの交響曲を意識するあまり、才能・実力・名声を手にしたあとも、どのような交響曲を書くべきか逡巡した。そして着想から20年あまりかけて、慎重にあなたためながらようやく世に出した《交響曲第1番》は、堂々たる記念碑的作品で、現代もなお不動の人気を誇っている。

ベートーヴェンの影にたじろぐ
慎重派なブラームス
イラストレーション: ©IKE



「新しい道」

音楽家として歩みはじめた若き青年ブラームスを、当時すでに名を成し影響力もあった作曲家シューマンが「新しい道」と題した記事で激賞した。一気に注目され、ベートーヴェンの後継者があらわれた！と高らかに喧伝されてデビューしたブラームス。チャンスをつかみ、躍進もしたが、「第2のベートーヴェン」という期待には想像もつかないプレッシャーを感じたことだろう。

B

第2009回

サントリーホール

4/24 水 7:00pm

4/25 木 7:00pm

指揮 クリストフ・エッセンバッハ

チェロ キアン・ソルターニ

コンサートマスター 郷古 廉(前半)、川崎洋介(後半)

シューマン

歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲[9']

シューマン

チェロ協奏曲 イ短調 作品129[25']

- I 速すぎず
- II ゆっくりと
- III きわめて生き生きと

—— 休憩(20分) ——

シューマン

交響曲 第2番 ハ長調 作品61[38']

- I ソステヌート・アッサイーアレグロ・マ・ノン・トロツポ
- II スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェトリオI、II
- III アダージョ・エスプレッシーヴォ
- IV アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください

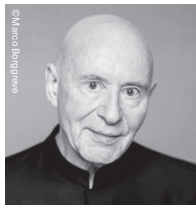


こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

クリストフ・エッセンバッハ（指揮）



エッセンバッハが指揮台に立つと、場の空気がびりっと引き締まる。深く歌い作品を雄大かつ爽快に描き出すが、そこには常にぴんと張った糸のような緊張感が漂い、彼の音楽に独特なオーラを纏わせる。

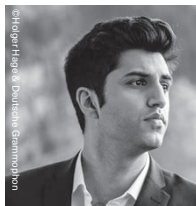
1960年代前半にミュンヘンのADR国際音楽コンクールやクララ・ハスキル国際コンクールを制覇しピアニストとしてキャリアを華々しくスタートさせたが、1970年代からは徐々に指揮に重心を移した。これまでに北ドイツ放送交響楽団（現NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団）、フィラデルフィア管弦楽団、パリ管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団といった世界の数多くの一流オケで要職を担い、2024年9月からはNFMヴロツワフ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督に就任予定。

N響との初共演は1979年で、ピアニストとしてギュンター・ヴァントの指揮でベートーヴェンの協奏曲を弾いた。30年ぶりとなった2017年の共演では世界最高峰の指揮者のひとりとしてブラームスの交響曲などを聴かせ、その後、2020年、2022年にも密度の濃い演奏を繰り広げている。今回もシューマン、ブルックナーといった得意どころを、鮮やかに鳴らしてくれるはずだ。

1940年ドイツのブレスラウ（現ポーランド・ヴロツワフ）に生まれたが、戦争で父を亡くし母の従姉妹に育てられた。戦争を肌で感じ音楽で自己形成した巨匠も今年84歳。世界が再びぎな臭くなってきた今、彼は音楽で何を語るのだろうか？

[江藤光紀／音楽評論家]

キアン・ソルターニ（チェロ）



キアン・ソルターニは、ペルシア人の音楽一家のもと、オーストリアのブレゲンツに生まれた。スイスのバーゼル音楽院でイヴァン・モニゲッティに師事。ドイツのクロンベルク・アカデミーやリヒテンシュタイン国際音楽アカデミーでも学ぶ。また、ダニエル・バレンボム率いるウェスト・イースタン・ディヴァン管弦楽団で首席チェロ奏者を務めた。2017年、クレディ・スイス・ヤング・アーティスト賞および、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭

でバーンスタイン賞を受賞。バレンボムとは彼の息子マイケル・バレンボムも交えてベートーヴェンのピアノ三重奏曲集を録音。2020年にはバレンボム指揮ベルリン国立歌劇場管弦楽団とドヴォルザークの《チェロ協奏曲》を録音した。2023-24シーズンは、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ウィーン交響楽団、NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団と共演。デビュー・アルバムで、歌心に満ちたシューマンの《幻想小曲集》や《アダージョとアレグロ》の演奏を披露していただけに、今回のシューマンの《チェロ協奏曲》も期待しないではいられない。N響とは初共演。使用楽器はアントニオ・ストラディヴァリ「The London, ex Boccherini」（Beares International Violin Society貸与）。

[山田治生／音楽評論家]

ロマン派をひとことで定義するなど、できないかもしれない。でも、もし「過去」と「未来」の呼び声に引き裂かれた自意識」にその本質をみるなら、ローベルト・シューマン（1810～1856）ほどロマン的な作曲家はいないだろう。ベートーヴェン亡きあと、尊敬するシューベルトほどのびのび筆を走らせることができず、ワーグナーほど革命的にもなれない——悩ましくもうわしい、誰にも似ない“声”がたっぷり詰まった3作品である。

シューマン

歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

シューマン最後の10年を、大がかりな劇へのチャレンジが彩っている。「朝な夕な、作曲家として願うのは、ドイツ語オペラを作ることです」（友人宛の手紙、1842年）と熱意は増すばかり。いまだフランスものに押されていた当時だから、新天地ドレスデンで健筆を振るう30代の作曲家にとって、母語によるオペラは念願だった。このときシューマンの頭にあったのと同じ題材を掘り下げたワーグナーがこのジャンルで革命をおこすのは、少しあとのことだ。

市井に人気をほこった中世の伝説『ニーベルングの歌』や『トリスタンとイゾルデ』に台本を求めようか、あるいは『ハムレット』か……悩んだあげく白羽の矢を立てたのが、フランスの聖女ジュヌヴィエーヴ（ドイツ語でゲノヴェーヴァ）の伝説にもとづくC. F. ヘッベルおよびL. ティークの戯曲だった。舞台は8世紀フランス。題名役は伯爵の若妻だが、ドラマを駆動するのはむしろ、彼女に横恋慕する若き執事ゴーロ。その心にうずまく欲望や嫉妬にシューマンも光をあてている。開始まもなくヴァイオリンが提示する下行音型と、それに続くチェロとファゴットの不気味なトリルは、劇のなかで繰り返しゴーロの心理を照らすことになるモティーフだ。全体をつらぬく音調は、ベートーヴェンが確立した「悲劇のハ短調」にほかならない。

台本が確定するかなり前にもう書き始められている点で、この序曲は異彩をはなつ。つまりオペラの成りゆきをあとで総括するというより、それ自体でも完結した内容もち、単独でよく演奏される。

作曲年代	[全曲] 1847年4月～1848年8月、1849年まで改訂
初演	[序曲] 1850年2月25日、ライプツィヒ [全曲] 1850年6月25日
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

チェロ協奏曲 イ短調 作品129

大作《ゲノヴェーヴァ》全曲の指揮をなしとげた2か月後、1850年秋にシューマンはデュッセルドルフにやってくる。新興の商業都市にして、自由な芸術活動がわきおこる活気に満ちた場。やがて精神を崩壊させるまで芸術監督として足かけ3年半、年に10回の定期演奏会をこの地で主導することになったのだ。

その記念すべき第1回演奏会、ピアニストである妻クララが華々しいソロを弾いた日に、本作は完成した。5年前にやっと仕上がった《ピアノ協奏曲》につづく2作目のコンチェルトであり、いまだ佳作のないジャンルに投じられた大きな一石である。もちろん定期演奏会での上演をもくろんでのことだったが、しかしハイドンやドヴォルザークの作品とちがって、きまった奏者を想定することなく書かれた点で異例だ。みずから親しんできたチェロにひそむ魅力を新しく解き放ちたいという、むしろ内的な欲求から本作は生まれたのである。

「……チェロとオーケストラのじつに興味深い絡みあい^{フェアウェーブング}にうっとりする。その心地よい響きと深い感情のうちに織り込まれた、あらゆる歌のパッセージ!」——試奏したクララの日記に綴られた言葉づかいは、シューマンの想いをたっぷり伝えている。美しいメロディと伴奏という枠組み^{ツグ}におさまらぬ、いくえにも糸が絡みあうタペストリーのような音調は、ひとびとの期待を超えていた。2人のチェロ奏者によるアドバイスもシューマンには受け入れる余地がほとんどなく、初演のチャンスを逃しつづけることになった。

出版にむけた細部の手直しも、強い幻聴に悩まされる1854年2月17日までつづいている。ふたたびクララの日記を開こう——「数時間のあいだローベルトはベッドでじっと耐えていたけれど、やがて立ちあがってチェロ協奏曲の直しを進めた。そうして声の永遠なる響きによっていくらか楽になった、そう彼は言った」。3つの楽章を切れ目なくつづける構成も、そんな永遠性に大きく寄与している。

作曲年代	1850年10月24日完成、1854年2月まで改訂
初演	おそらく1867年12月10日、ダーフィット・ポッパー独奏、ヴロツワフ [ピアノ伴奏版] 1860年6月9日、ライプツィヒ
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、チェロ・ソロ

シューマン

交響曲 第2番 ハ長調 作品61

《チェロ協奏曲》をシューマンは「徹底して晴朗^{ハイトナー}な」音楽とよんだ(出版社宛の手紙、1853年11月3日)。当時であってこの語はたんなる爽やかさではなく、もう取り戻せない高貴な

シンプルさといった意味をもつ。ベートーヴェンの出現によって「できること」と「やりたいこと」の摩擦にたえず苦しんでいた作曲家にとって、「晴朗さ」はあこがれてやまぬ理想であった。

さて、《チェロ協奏曲》からさかのぼること6年前の冬、シューマンはドレスデンにいた。こまめにつけていた家計簿に「交響曲の楽想」の文字が書きつけられたのは、この美しき古都に移り住んでまもなく、シューベルトの《交響曲第8番「ザ・グレート」》を聴いた3日後のことである。5年前に遺族から譲り受けて世に出し、熱烈に愛した作品であった。「昔いたことがあるとはどうしても思い出せないような、ある国につれていってくれる」と(1840年3月10日の評論)。

シューベルトと同じ曇りないハ長調の交響曲は、しかしたいへん長い時間を要した。かつての《第1交響曲》のように「靈感のままに信じられぬ速さで書いた」頃とちがって「すべてを頭のなかで練りあげるといったまったく別の作曲法」にいたったと、のちに回顧している(1846年4月の日記)。そうした新フェイズを画する交響曲は、葛藤をのりこえて「普遍的なものにいたる力強さ」ゆえ、ベートーヴェンの《第9交響曲》に匹敵するとさえ、初演後にいくども評された。幻聴に悩まされていた時期に「なかば病人のように書きはじめ(中略)仕上げた後ようやく回復しました」(1849年4月2日)とみずから述懐するように、長いプロセスのすえに歌いあげられた勝利は、作者の人生にも深くつうじるものだった。

第1楽章 「頭のなかで数日来トランペットが鳴っています」(着手の6日後)という言葉どおりの序奏は、ハイドン最後のシンフォニー(《第104番》)をなぞるような晴朗さで幕を開けるが、その背後には、メランコリックな耳鳴りのごとき半音階パッセージが旋回している。

第2楽章 躁的な渦巻きがつづくスケルツォ。ベートーヴェンの伝統をふまえて、2つの中間部をはさむ5部形式がとられている。

第3楽章 バッハ時代に「感きわまった叫び」と呼ばれた跳躍モチーフで幕を開け、十字架を切る音型で深い内面に沈んでゆく。楽章なかばで、管楽器に高音のヴァイオリンが熱烈に寄り添うところはチャイコフスキーに感銘を与えた。

第4楽章 シューベルトが《大ハ長調交響曲》でベートーヴェンの〈歓喜の歌〉をなぞったように、シューマンもこの偉人の歌曲《はるかな恋人に》のテーマ〈いつもの歌をお別れに〉を**変形**させて登場させる(開始4分ほど)。そうしておいて最後にこれを**オリジナル**の形で引用し、晴れやかな勝利を告げるのだ。

作曲年代	1845年12月12日「交響曲の楽想」を得る。12月28日スケッチ完了。翌年2～5月まで体調不良のため筆が進まず、10月に完成。出版のため1847年10月まで細部を修正
初演	1846年11月5日、メンデルスゾーン指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

B 2024, APRIL
[第2009回]
🎵🎵

文学にも精通する、ロマン派作曲家の旗頭

ローベルト・シューマン

Robert Schumann (1810-1856)

書店・出版業を営み、著述家でもあった父親のもと、シューマンは幼い頃から本に囲まれ、文学青年へと成長していく。作曲家としての活動のかたわら、1834年には音楽雑誌を創刊、自らも評論文を寄稿した。文学は常に身近にあり続け、《歌劇「ゲノヴェーヴァ」》では台本執筆にも携わった。個人の感情や自由の尊重、神秘的なものへの憧れを掲げたロマン主義音楽の代表的作曲家となるも、晩年は精神を患い、46歳で亡くなった。

ローベルトと クララ

ピアニストの妻クララは、夫のオーケストラ作品の価値に確信を持っていたようで、日記には「私の一番の望みは、彼がオーケストラのために作曲すること——それこそ彼の本領なのだ！彼をそうしむけることができますように」と記している。演奏もピカイチなうえ、内助の功もできる妻。時代を代表する作曲家とピアニストであるシューマン夫妻は、双方に音楽的才能があふれすぎている最強カップルだ！



身重のクララ。
さまざまな困難を乗り越えて結婚した2人
イラストレーション: ©IKE

PROGRAM

C

第2008回

NHKホール

4/19 **金** 7:30pm

4/20 **土** 2:00pm

指揮

クリストフ・エッシェンバッハ | プロフィールはp. 24

コンサートマスター

川崎洋介

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

19日(金)6:45pm～/20日(土)1:15pm～

オーボエ:吉村結実、坪池泉美 イングリッシュ・ホルン:和久井 仁

ベートーヴェン/2本のオーボエとイングリッシュ・ホルンのための三重奏曲 ハ長調 作品87—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ブルックナー生誕200年

ブルックナー

交響曲 第7番 ホ長調[64']

I アレグロ・モデラート

II アダージョ:きわめて荘厳に、
そしてきわめてゆっくりと

III スケルツォ:きわめて速く—トリオ:ややゆっくりと

IV 終曲:動きをもって、しかし速すぎず

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

アントン・ブルックナー(1824~1896)は、自身の《交響曲第5番》を生前に聴くことがかなわなかった。複雑極まる作品は、当時のオーケストラのみならず、ほとんどの聴き手にとって時代を先取りしすぎていたのだろう。この《第5番》から《第7番》へと至る過程をたどれば、多くのひとに受け容れられる「言葉」をついに手に入れた作曲家の喜びがより伝わるのではないか。今回はこの喜びを、クリストフ・エッセンバツハとN響メンバーが十全に表現してくれるだろう。

ブルックナー

交響曲 第7番 ホ長調

1878年に完成した《交響曲第5番》の最大の特徴でもある構造の複雑さこそは、ブルックナー作品が人口に膾炙しない最大の問題であった。第4楽章で二重フーガを駆使し、前人未踏の大伽藍を築き上げたにもかかわらず、それがまったく演奏されず、誰にも省みられないとなれば、わざわざそんな労力を払うのは無駄であろう。《第5番》完成の翌年、1879年から作曲された《第6番》では、複雑な対位法的作曲法はほとんど放棄され、わかりやすい旋律が強調された。

すなわち、《第5番》では形式的要素が、《第6番》では歌謡的要素が強調された、ともいえるか。続く《第7番》において、ブルックナーはこの両者をほどよく調和させようと試みたように思われる。《第7番》が大成功を収めた要因のひとつには、こうした両極端な音楽の性質をバランスよく共存させうえて、それを効果的に聴衆へと伝える術をブルックナーがついに会得し、それによって圧倒的な個性が開いたため、とは言えないだろうか。

1881年9月、《交響曲第6番》の作曲が終わったあと、勤勉なブルックナーは休む間もなく《第7番》の作曲に取りかかった。1882年には第3楽章、第1楽章の順に作曲が進められ、1883年1月に第2楽章のスケッチが完了した。2月13日、リヒャルト・ワーグナーがヴェネツィアで客死。この報せを受け取ったとき、ブルックナーは第2楽章の仕上げを施していたという。圧倒的な盛り上がりの中のち、静かに終わっていくその終結部(練習番号X以降)について、ブルックナーは「巨匠のために心からの葬送音楽を書いた」と述懐している。だが、これだけ緊密な構造を有する作品において、すでに揺るぎない全体像があったに違はなく、ワーグナーの追悼を感じさせる要素をあとから追加した、というこのエピソードは、はたしてどこまで真実を伝えているのだろうか。

1883年9月には全体の作曲が完了。ブルックナーは、当時ライブツィヒ歌劇場で活躍していた指揮者アルトゥール・ニキシュに初演を直談判し、1884年12月には同地での初

演が実現した。翌1885年3月にはミュンヘンでも演奏が続く。これらの成功をきっかけとして、これまでブルックナー作品をほぼ黙殺し続けていたウィーンにおいても、1886年3月には演奏が実現。この交響曲の成功に自信を得たブルックナーは、各楽章の規模をより膨らませた形で、次の《交響曲第8番》に取り組むこととなる。

かすかな弦楽器のトレモロとともにホルンとチェロによって第1主題が始まる第1楽章の冒頭も、そして3つの主題を順番に登場させる独自のソナタ形式も、自身のこれまでの様式を踏襲しているが、各部分はより自然につながるように工夫されている。

この作品においては、初版(1885年)、ハース版(1944年)、ノヴァーク版(1954年)ともに、その違いは大きくないが(今日はノヴァーク版を使用する)、第2楽章のクライマックス(練習番号W)における打楽器の扱いは常に議論の対象となる。ティンパニ、トライアングル、シンバルのパートは、あとから総譜に紙が貼られて付け足されたものの、その右上に「無効」と書き入れられている。ノヴァークは、これをブルックナーの筆跡ではないと判断して打楽器を採り入れたが、現在ではやはり作曲家の筆跡では、という説もあり、その判断は指揮者に委ねられている。この楽章最後で活躍するワーグナー・チューバは、《ニーベルングの指環》の陰鬱な地底の雰囲気を描写するためにワーグナーが作らせた楽器。独特の荘重な、それでいてもの哀しい雰囲気を生み出している。

第3楽章のトランペットによる冒頭主題では、雄鶏おんどりの朝の鳴き声からヒントを得たというエピソードが有名だろう。それに続く7度の下降モチーフを自然につながり合わせる巧みさに、作曲家の進境が感じられる。

ソナタ形式の第4楽章でも3つの主題が用いられるのは定例通り。全楽器で演奏される第3主題(第1主題の変形)の荒々しさと素朴さにこそ、シンプルさと複雑さを同居させるこの作曲家の良さが最大限に発揮されている。再現部では、普通は1、2、3の順番に演奏される主題が、逆に3、2、1の順で登場し、その輝かしい雰囲気のままに終結部へと至る工夫が新しい。

作曲年代	1881年9月23日～1883年9月5日
初演	1884年12月30日、ライブツィヒ、アルトウール・ニキシュ指揮、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ワーグナー・チューバ4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、弦楽

貧しいながらも音楽的な家庭で育ったブルックナー少年は、12歳で父を亡くし、そのまま合唱児童として修道院へ預けられた。自分の音楽的才能を地道に琢磨しながらも、生活のために早くから働いたブルックナー。小学校教師を経て、オルガン奏者などを務めるかわら、通信教育や年下の教師から作曲を学び終えたのは38歳の頃。習作を経て、ようやく《交響曲第1番》を完成させたのは41歳で、本日演奏される《第7番》の完成は59歳だ。音楽にも人生にも愚直で勤勉な態度は終生変わらなかった。

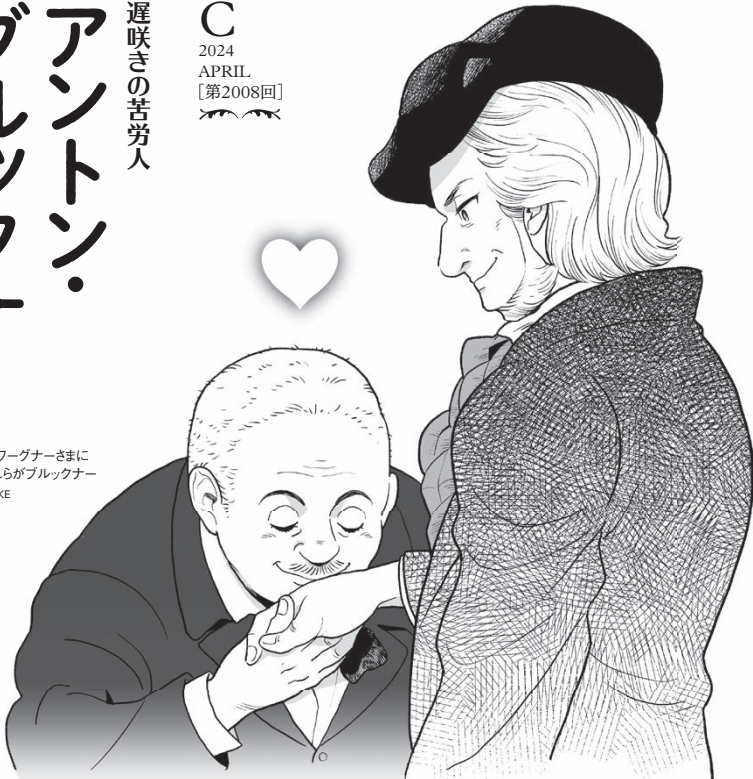
Anton Bruckner (1824-1896)

アントン・ブルックナー

遅咲きの苦勞人

C
2024
APRIL
[第2008回]

大大好きなワーグナーさまに
忠誠を誓うわれらがブルックナー
イラストレーション: ©IKE



純朴なワグネリアン

ウィーンの都会的な空気に染まらず野暮なまま、気取らず控えめだったブルックナーだが、ひとたび話題がワーグナーになると饒舌にならずにはいられない。新作の初演にはもちろん足を運び、本人を前にすれば舞い上がる。《交響曲第7番》でもワーグナーが考案した金管楽器（ワーグナー・チューバ）を使用するなど、ワーグナーへの愛があちこちに見え隠れしている。

N響百年史

第四十五回 — もしかして貴志康一？

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿との楽団運営の主導権をめぐる戦いは楽員側の勝利に終わりました。近衛の後を襲うのは誰か……。ひとりの青年音楽家が登場します。

近衛時代の終焉

近衛秀麿このまひでまろは自らが握っているはずの楽員の人事権を大胆に活用して、メンバーの大幅入れ替えを行いたい。そうすれば新交響楽団の演奏水準を劇的に上げられ、主にレコードのおかげで耳が肥えているファンの期待にも応えられ、オーケストラの国際的評価も高められる。そう信じていた。楽員側は当然ながら臆首かくしゆを心配し、組合を組織して対抗する。その中心にいたのは、やはり首席チェロ奏者の齋藤秀雄であろう。楽員を入れ替えずとも、現有戦力を日頃の猛練習によって鍛えることで、演奏水準はまだまだ高められる。そもそも楽団には楽団の響きというものがあるので、個々のプレイヤーの技術の高低のようなところにばかり目のゆく近衛の何やら偉そうな態度は、所詮「木を見て森を見ず」なのである。のちには演奏家よりも教育者として日本の楽壇がくだんに圧倒的影響力を及ぼすことになる、齋藤の信念であった。彼は当時、チェロのみならず、新交響楽団の副指揮者の、トレーナー的立場にもいて、特に弦楽セクションのメンバーをしっかりと掌握しやうあくしていた。多数派を抑えていた。その意味で齋藤は組合運動家としての資質も有していた。

近衛と楽員側はどこかで決着を付けねばならない運命であった。近衛対齋藤と理解したほうがわかりやすくなる面もあるだろう。ついに1935(昭和10)年に最終決戦の段階に至り、「夏の陣」が勃発ぼつぱつした。新交響楽団の事実上の親社会的立場にある日本放送協会は、はじめ近衛の側に立って、7月22日に新交響楽団との諸契約を解除し、放送出演もさせない方向で、夏のうちに近衛が新交響楽団に代わる新しいオーケストラを組織することに期待したが、

近衛の目論見は空振りに終わり、近衛の敗退が明らかとなったので、8月24日、放送局側は新交響楽団と、少なくとも放送出演に関しては、あくまでも仮という建前で、よりを戻すことにした。9月2日から、放送局のスタジオからの新交響楽団の演奏が電波にまた乗るようになった。

潮目が変わり、楽員側の勝勢が定まったのは、前回記したように、8月18日の日比谷公園の野外音楽堂での無指揮者演奏会の大成功によってだろう。指揮者なしといっても、リハーサルもそうだったのではない。指揮者が付いていた。彼が、作品解釈の面まで含めて、しかも皆の合意を取りながら、無理なくアンサンブルを仕上げていたからこそ、本番では指揮者がおらずとも、目線や身振りによるコンタクトによって、演奏が芸術的な水準で成立した。その指揮者とは誰か。むろん齋藤である。近衛の独裁主義に齋藤らの民主主義が勝った。オーケストラはそう思った。

9月12日、新交響楽団は、秋の定期公演(当時は予約演奏会)の開始に先立って、臨時に肩凝らないコンサートを開催した。「夏の陣」を勝ち抜いたオーケストラの凱旋興行といえるものだった。指揮は功績第一等の齋藤だ。独唱者に佐藤美子や内本実を迎え、曲目にはデンツァの《フニクリ・フニクラ》などに加え、山田耕筰の《この道》も入る。すでに新交響楽団と復縁し、定期公演の指揮者陣にも入るようになった山田だけれど、邪魔者の近衛がとりあえずいなくなつて、新交響楽団との風通しはますますよくなった。11月28日には、山田の指揮する新交響楽団による、プログラム全部が山田作品という特別公演も開かれた。全曲の完成と初演は5年後の1940(昭和15)年まで持ち越されてゆく《歌劇「黒船」》の、日本名物の地震の描写などを含む、長いパントマイム部分のオーケスト

ラ音楽が、目玉だった。12月10日には、山田が中心的に企画したサン・サーンス生誕100年記念の特別公演も、山田の指揮で催された。ピアノと管弦楽のための《幻想曲「アフリカ」》が、フランスでダンディに師事してきた高木東六を独奏に迎えて日本初演され、《歌劇「サムソンとデリラ」》からのアリアを佐藤美子が独唱し、《交響曲第3番「オルガン付き」》が、山田の作曲の愛弟子で、教会オルガニストとしての履歴も積んでいた大中寅二をソリストにして壮大に響き渡り、山田は大いに面目をほどこした。山田の率いる日本交響楽協会を割って出てゆき、近衛を大看板に立てて旗揚げした新交響楽団が、もともと自分のオーケストラであったかのような錯覚に陥り、感慨に浸った。

近衛の後釜は誰か

話を少し戻す。近衛と訣別しての最初の定期になる第158回公演は、9月27日、いつものように日比谷公会堂で開かれた。指揮台に立ったのはクラウス・プリングスハイムである。若き日にはマーラーの指揮のアシスタントを務め、1910年代から指揮と作曲でベルリンで大活躍するようになり、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とマーラーの交響曲の連続演奏会を催して師の作品の紹介に努めもした彼は、1931(昭和6)年に来日して東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)の教授に就任すると、同学校の管弦楽団を指揮してやはりマーラーの《交響曲第5番》や《第6番》を日本初演するなど、精力的に活動した。門弟からは山田一雄のような、自らをマーラーの生まれ変わりと信ずるに至る“マーラーかぶれ”さえ出現した。そのプリングスハイムの振る、マーラーでなく、ブラームス

の《交響曲第1番》や、井口基成^{もとなり}と共演してのシューマンの《ピアノ協奏曲》で、新交響楽団の新時代は開幕した。翌10月23日の第159回は山田の指揮でモーツァルトやフランス近代音楽。山田が大正期から一貫して好みのドビュッシーから《牧神の午後への前奏曲》が取り上げられ、また、ドビュッシー、ラヴェル、フォーレ、ショーンの管弦楽伴奏歌曲を太田綾子^{あやこ}（旧姓荻野^{おぎの}）が歌った。12月4日の第161回では、ロシアから亡命してきていた名ヴァイオリニスト、アレクサンドル・モギレフスキーが指揮者として登場し、すでにベルリンで世界初演されていた諸井三郎の《交響曲第1番》を日本初演し、12月17日の第162回では齋藤がバルトークの《舞踊組曲》などを振った。

近衛なき新交響楽団を率いるのは誰か。そういう含みがあったの秋のもろもろの演奏会だったけれど、プリングスハイムは近衛と同じくマーラー^{びい き}最^{けんかく}真^{かん}なのが、何となく楽員の癪にさわるし、しかも彼は「上野の先生」であって集客力を欠く。山田は相変わらずの楽壇の大物だが、作曲家としてはともかく指揮者としては近衛以上でないとは、楽員たちが日本交響楽協会時代から抱く見解だ。チェロの首席の齋藤が突出した演奏指導の能力を持つことも皆承知だが、楽員のリーダーというのと音楽監督的立場とではやはり懸隔がある。それにスター性の問題がある。やはり商売をせねばならない。近衛秀麿は、華族の筆頭格で皇室にもとても近い近衛家の一員で、政界のプリンス、近衛文麿^{ふみ}の弟だ。しかも裏切った恰好^{かつこう}になったとはいえ、誰もが音楽家として知る山田耕筰が最も才能を認めた弟子であり、世界最高峰のベルリン・フィルを1924（大正13）年と1933（昭和8）年に指揮し、フルトヴェングラーやリヒャルト・シュトラウスとも旧知の仲なのだ。そのくらのキャリ

アがあって、華やかなスター性もあって、近衛にとって代われる人物がどうしても欲しい。

貴志康一、登場！

いやいや、そこまでの存在がなかなか現れないから近衛も君臨できていた。対抗馬なんているわけがない。そのはずだった。ところがタイミングとは恐ろしい。ちょうどそのとき近衛の後釜^{あとがま}かとも思われる青年音楽家が日本に出現した。貴志康一^{きしこういち}という。

1909（明治42）年、大阪の大富豪の家に生まれ、ヴァイオリニストを志し、1927（昭和2）年からスイスとドイツに留学。ベルリンでカルル・フレッシュに師事し、ストラディヴァリウス^あの名器を購入して1929（昭和4）年に帰国。実は1930（昭和5）年には東京で近衛秀麿の指揮する新交響楽団を雇ってコンチェルトの夕べを開いている。奏でたのはメンデルスゾーンとブルックだ。それなりのソリストだったようである。

が、本人も限界を感じはじめる。指揮と作曲に興味を移してゆく。1932（昭和7）年から1935（昭和10）年まで、再度洋行し、主にベルリンで学び、活動する。ヴァイオリンよりもそちらのほうが良かったようだ。財力もあるからやることも派手だ。ベルリンで注目を浴びる。フルトヴェングラーやヒンデミットにも近しくなる。このへんの人脈は近衛^{かほ}と被る。貴志本人も近衛をライヴァルに見立てていた。1933年に近衛がベルリン・フィルを振ったときのことも、経緯を含めて、現地でよく知っている。自分もベルリン・フィルを振ろう！ 1934（昭和9）年11月18日に実現させた。ベルリン・フィルが主催する「日曜コンサート」を指揮し、ドビュッシーの《牧神の午後への前奏曲》や、近衛も得意としたリヒャルト・シュトラウ

スの《交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」》、それから大作を含む自作群を並べた。長大で交響詩的な《交響曲「^{ぼつだ}仏陀の生涯」》、管弦楽伴奏歌曲の《芸者》や《^{りきしや}力車》や《かごかき》や《富士山》、大オーケストラのための組曲《日本スケッチ》などである。派手な曲が多い。ベルリンの諸新聞に批評がたくさん出た。おおむね好評であった。近衛は作曲家よりも雅楽やシューベルトの管弦楽編曲家として評価された。でも貴志は指揮もだけれど作曲家として日本人のオリジナリティを称賛された。近衛を超えた！ 貴志は自負した。1935年3月にはベルリン・フィルと自作のレコーディングまでした。こうなると壮挙としかいいようがない。1937(昭和12)年には山田耕筰が渡独してやはりベルリン・フィルを指揮して自作をレコーディングするが、それよりも2年早い。貴志はベルリンで、近衛や山田と肩を並べた、あるいは超えたというくらいのキャリアを築いて、1935年5月に帰国した。

貴志の本拠は実家のある大阪。でも、日本の洋楽の中心は大阪よりも東京だ。日本を代表する新交響楽団だって東京にある。貴志はとにかく新交響楽団を指揮して、東京に名を知らしめなくては、本国での音楽活動を有意に展開できぬと思った。ちょうど、その頃である。東京で近衛と新交響楽団の「夏の陣」が始まったのは！

貴志は当然、後釜を狙いに行った。秋の定期公演への出演を願った。新交響楽団としても渡りに舟だ。見つけたいタレントが向こうからやってきたのだ。でも、プリングスハイムに山田

に、東京音楽学校のヴァイオリンの教授のローベルト・ボラックに、モギレフスキーに齋藤。12月までは一杯だ。ならばとりあえず11月に、かつてヴァイオリニストとして貴志が新交響楽団を雇った協奏曲のタペのように、貴志本人が主催して、新交響楽団はたっぷり出演料を頂戴する依頼演奏会のかたちで、東京における貴志の指揮者デビューのリサイタルをやってもらおうか。

日本放送協会での番組出演は再開しているものの、補助金をもらえるような状態には戻っていないので、新交響楽団は相変わらずの経営難だった。大金持ちの貴志との付き合いはやはりうれしい。貴志もOKした。11月26日、場所は神宮外苑の日本青年館と決まった。先に触れた、山田耕筰の《黒船》などによる自作自演コンサートの2日前である。貴志はその日のプログラムでは自作を封じた。泰西名曲のみで勝負した。

結果はどうだったか。大反響を巻き起こした。もしかして近衛時代のあとは貴志時代？ 貴志と新交響楽団の本当に短い蜜月時代がその日から始まった。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2024年5月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

首席指揮者ファビオ・ルイージは、デビュー以来40年にわたって、欧米各地の歌劇場やオーケストラで経験を重ねてきた。それぞれの街で未知の作品との出会いがあり、それが彼の豊富なレパートリーを形作っている。昨年12月のマーラー《一千人の交響曲》で、類まれな存在感を示したルイージの魅力に、別の角度から迫る5月のラインアップである。

ルイージとともに いにしえのローマに思いを馳せる

[Aプログラム]の《戦いに生きて》は、気鋭のイタリア作曲家、パンフィリの近作。ルイージが音楽監督を務めたフィレンツェ五月音楽祭管弦楽団の委嘱により、2017年に世界初演された。大作曲家ヴェルディの伝記から取った曲名は、予定調和を打ち破ろうとする芸術家の苦闘、社会の不正に声を上げる姿勢といった「内なる戦い」を指す。続くレスピーギとの間に、刺激的なコントラストが生まれることを意図して選曲した。

「ローマ三部作」は、ローマ各地の観光ガイド風でもあり、古代ローマ帝国へと想像力を巡らせる、壮大な歴史の旅でもある。《ローマの噴水》は、印象派の絵画を思わせる、光と水の繊

細なハーモニー。《ローマの松》は、ちょうど100年前の作曲。SP録音の普及という時代背景もあり、鳥の鳴き声を蓄音機で再生するという、ユニークな手法が使われた（ただし今回は鳥笛で演奏）。トーキー映画初公開の翌年に初演された《ローマの祭り》は、スペクタクル映画さながらの迫力だ。今回は《松》《噴水》《祭り》の順に演奏するが、叙情的な《噴水》を挟み、両端に派手な2曲を置くことで、一繋がり^{つな}の交響曲のような起伏を作りたいと、マエストロは考えた。

シェークスピアの言葉の輝きに匹敵する メンデルスゾーンの華やかな響き

ルイージは、ライブツィヒに拠点を置くMDR交響楽団の芸術監督を10年以上にわたって務めたが、在任中、当地ゆかりのメンデルスゾーンを続けて指揮する機会を持ったという。[Cプログラム]の《交響曲第5番》は、宗教改革の記念行事に向けて作曲された。「ドレスデン・アーメン」の主題で全楽章の統一を図ったり、終楽章でルターのコラールを引用し、変奏曲とソナタ形式の融合を試みたりと、若き作曲家の工夫のあとが見られる。明るく活気に満ちたこの曲は、ルイージの好むコンサートピースのひとつであり、カトリックの国イタリアで演奏して

も、多くの聴衆に喜ばれるらしい。

夏至が近づく季節、前半には「夏の夜の夢」の音楽を組み合わせた。軽やかな足どりの〈序曲〉によって、聴き手はたちまち妖精の世界に引き込まれる。ホルン・ソロが印象的な〈夜想曲〉といい、有名な〈結婚行進曲〉といい、シンプルで華やかな管弦楽法は、ルイーゼが言う通り、シェークスピアの言葉の輝きに匹敵する。

ルイーゼがニルセンで生み出す心地よい音楽の起伏に身を委ねる

[Bプログラム]では、ルドルフ・ブフビンダーを10年ぶりに迎える。地元ウィーンは言うまでもなく、ヨーロッパ全域で確かな信頼と尊敬を集めている大御所である。かつてウィーンを拠点に活動したルイーゼとも昵懇の間柄で、マエストロは「世界最高峰のピアニスト」と、賞賛を惜しまない。悠揚迫らざる構えの大きさ、ここぞとい

う勘所を押さえた巨匠の風格は、オーケストラとソロが対等に掛け合うブラームス《ピアノ協奏曲第1番》で、最良の味わいを醸し出すだろう。

デンマーク国立交響楽団の首席指揮者でもあるルイーゼは、この数年、ニルセンに熱心に取り組んできた。その音楽には、ハンドメイドの家具のような質朴な手触りがある。ルイーゼ曰く「洗練された簡潔な言葉で、大切なことを語れる稀有な作曲家」だ。

《交響曲第2番》の副題は、人間の気質を4つに分類し、その特徴をコミカルに描いた絵画に由来する。だが単なる“気質”の羅列ではなく、一貫した流れを持つ、完成度の高い作品に仕上がっている。ルイーゼが生み出す心地よい音楽の起伏に身を委ねたい。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 5/11 土
6:00pm
5/12 日
2:00pm
NHKホール

バンフィリ／戦いに生きて[日本初演]
レスピーギ／交響詩「ローマの松」
レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」
※当初発表の曲順から変更となりました。

指揮：ファビオ・ルイーゼ



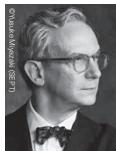
B 5/22 水
7:00pm
5/23 木
7:00pm
サントリーホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15
ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」
指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：ルドルフ・ブフビンダー



C 5/17 金
7:30pm
5/18 土
2:00pm
NHKホール

メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」
メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」
指揮：ファビオ・ルイーゼ



チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	発売中

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	4-5・6月	発売中
-------	--------	-----

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※[WEBセレクト3+]の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502		●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

営業時間: 10:00am～5:00pm
定休日: 土・日・祝日

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on     

N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2023-24定期公演プログラム

A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
---	---	---

2024 05	A 第2010回 5/11 [土] 6:00pm 5/12 [日] 2:00pm NHKホール	眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い バンフィリ／戦いに生きて【日本初演】 レスピーギ／交響詩「ローマの松」 レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」 指揮：ファビオ・ルイージ ※当初発表の曲順から変更となりました。	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
	B 第2012回 5/22 [水] 7:00pm 5/23 [木] 7:00pm サントリーホール	デンマーク国立響のシェフ ルイージがN響でニルセンを初披露 ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15 ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：ルドルフ・フビンダー	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	C 第2011回 5/17 [金] 7:30pm 5/18 [土] 2:00pm NHKホール	ルイージ&N響のメンデルスゾーン第2弾《夏の夜の夢》&《宗教改革》 メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽 —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」 メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」 指揮：ファビオ・ルイージ	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2024 06	A 第2013回 6/8 [土] 6:00pm 6/9 [日] 2:00pm NHKホール	盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャービンの世界 スクリャービン／夢想 作品24 スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20 スクリャービン／交響曲 第2番 ハ短調 作品29 指揮：原田慶太楼 ピアノ：反田恭平	一般 S ¥9,100 A ¥7,600 B ¥5,900 C ¥4,800 D ¥3,800 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B 第2015回 6/19 [水] 7:00pm 6/20 [木] 7:00pm サントリーホール	楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く ウェーベルン／バツサカリア 作品1 シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36 バッハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485 指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：イザベル・ファウスト	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	C 第2014回 6/14 [金] 7:30pm 6/15 [土] 2:00pm NHKホール	定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム イベール／寄港地 ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 ドビュッシー／夜想曲* 指揮：沖澤のどか ピアノ：デニス・コジュビン 女声合唱：東京混声合唱団*	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

Cプログラムについて	・休憩のない、60～80分程度の公演となります。 ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
-------------------	---

特別公演

5/6(月) 4:00pm | N響 ドラゴンクエスト・コンサート ～そして伝説へ…～

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮: 下野竜也

すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストV」天空の花嫁—「序曲のマーチ」
エルガー / 組曲「子どもの魔法のつえ」第1番 作品1a—「序曲」「メヌエット」「妖精と巨人」
すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストIV」導かれし者たち—「海図を広げて」「栄光への戦い」
ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)—「カッチェイ王の魔の踊り」「こもり歌」「終曲」
すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストIII」そして伝説へ… (1987年N響録音版・全曲)

料金(税込): 一般 | S席9,000円 A席8,000円
ユースチケット(25歳以下) | S席4,500円 A席4,000円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット予定枚数終了

主催: NHK交響楽団 提携: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 協力: 株式会社スクウェア・エニックス、スギヤマ工房有限会社

5/28(日) 7:00pm | Music Tomorrow 2024

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高賞授賞式・プレトーク: 6:30pm～

指揮: ベーター・ルンデル* ハープ: グザヴィエ・ドゥ・メストレ ピアノ: フランソワ・フレデリック・ギイ

*当初出演予定のペーテル・エトヴェシュ(指揮)から変更になりました。

エトヴェシュ / マレーヴィチを読む(2018) [日本初演]
湯浅譲二 / 打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌(エレジイ)—for my wife, Reiko—」(2023) [第71回「尾高賞」受賞作品]
エトヴェシュ / ハープ協奏曲(2023) [NHK交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン放送管弦楽団・合唱団有限会社、スイス・ロマンダ管弦楽団、ウィーン楽友協会、ボルト・カーザ・ダムジカ 共同委嘱作品 / 日本初演]
ミュライユ / 「嵐の目」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲(2022) [NHK交響楽団、ラジオ・フランス、BBCラジオ3、NDRエルブフィルハーモニー管弦楽団 共同委嘱作品 / 日本初演]

料金(税込): 一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円
WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円
ユースチケット(25歳以下) | 500円

チケット発売中

主催: NHK / NHK交響楽団 共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団
助成: 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人アフィニス文化財団



7/12金 7:00pm | N響「夏」2024

NHK ホール

指揮:グスターボ・ヒメノ ヴァイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー

シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ベートーヴェン/交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月24日(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5月14日(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

7/27日 3:30pm | 夏休み特別公演 | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:クリスティーナ・ボスカ ピアノ:アレクサンドラ・ドヴガン ナビゲーター:厚切りジェイソン

[世界ぐるっと名曲の旅]

ジョン・ウィリアムズ/オリンピック・スピリット(アメリカ)

エッレル/マイ・ホームランド(エストニア)

ブリテン/青少年のための管弦楽入門(イギリス)

グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16—第1楽章(ノルウェー)

J.シュトラウス1世/ラデツキー行進曲 作品228(オーストリア)

マスカーニ/歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)

ビゼー/「アルルの女」組曲 第2番—「ファランドール」(フランス)

料金(税込):一般 | S席5,200円 A席4,200円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:5/24(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

9/5(木) 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮:下野竜也 チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)* ナビゲーター:大林奈津子

スッペ/喜歌劇「軽騎兵」序曲から(2月Cプログラム)

ドビュッシー/「イベリア」—「祭りの朝」(11月Aプログラム)

シューマン/交響曲 第1番「春」—第2楽章(2月Bプログラム)

マーラー/交響曲 第1番「巨人」—第2楽章から(6月Cプログラム)

チャイコフスキー/「ロココ風の主題による変奏曲」—第6、第7変奏*(9月Cプログラム)

プロコフィエフ/バレエ音楽「石の花」結婚組曲—「結婚の歌」(11月Bプログラム)

ブラームス/交響曲 第4番—第3楽章(10月Aプログラム)

ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」—「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」(12月Bプログラム)

料金(税込):一般1,800円/定期会員1,200円/ユースチケット(29歳以下)500円/
ウェルカム・ペアチケット(2枚1組)2,000円

チケット発売日:5/24(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

9/9(月) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート 2024

サントリーホール

指揮:パスカール・ロフェ ピアノ:ジョナタン・フルネル

ブリテン/歌劇「ピーター・グラ임ズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a

ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲 二長調

フォーレ/組曲「ヘレアスとメリザンド」作品80

ドビュッシー/交響詩「海」

料金(税込):一般|SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(29歳以下)|SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5/24(金)10:00am

N響定期会員先行発売日:5/14(火)10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社明電舎

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm

定休日:土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

5/3(金) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2024

東京文化会館 大ホール

指揮:坂入健司郎 ヴァイオリン:木嶋真優
ハチャトリアン／ヴァイオリン協奏曲 二短調
ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 二短調 作品47

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

6/1(土) 5:00pm | 広上淳一指揮 NHK交響楽団 チェロ:上野通明

グランシップ 中ホール・大地

指揮:広上淳一 チェロ:上野通明
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 口短調 作品104
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

6/2(日) 3:30pm | NHK交響楽団 幸田公演

幸田町民会館 さくらホール

出演者・曲目は6月1日と同じ

主催:幸田町、幸田町文化振興協会 お問い合わせ:幸田町文化振興協会 TEL(0564)63-1111

6/23(日) 2:00pm | 鈴木優人×イザベル・ファウスト NHK交響楽団 in Chofu

調布市グリーンホール 大ホール

指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
バッハ(ウェーベルン編)／リチェルカータ
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

主催:(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市 お問い合わせ:チケットCHOFU TEL (042) 481-7222

6/29 日 **4:00pm** | **井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音**

サントリーホール

指揮:井上道義 ヴァイオリン:服部百音

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

ロッシェニ／歌劇「プルスキーノ氏」序曲

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 嬰ハ短調 作品129

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

6/30 日 **4:00pm** | **井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音**

フェスティバルホール

出演者・曲目は6月29日と同じ

主催:サンライズプロモーション東京 お問合せ:キョードーインフォメーション TEL (0570) 200-888

7/7 日 **3:00pm** | **NHK交響楽団 郡山公演**

けんしん郡山文化センター 大ホール

指揮:秋山和慶 ピアノ:アレクサンダー・ガジェヴ

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

お問合せ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL (024) 934-2288

7/16 日 **7:00pm** | **東広島市制施行50周年記念事業 NHK交響楽団 東広島特別演奏会**

東広島市芸術文化ホールくらら 大ホール

指揮:グスターボ・ヒメノ ヴァイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー

シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

主催:東広島芸術文化ホール指定管理者 お問合せ:東広島芸術文化ホールくらら チケットセンター TEL (082) 426-5990

7/21 日 **5:00pm** | **NHK交響楽団演奏会 富山公演**

富山県民会館 ホール

指揮:クリスティーナ・ボスカ ヴァイオリン:荒井里桜

モーツァルト／歌劇「イドメネオ」バレエ音楽 K. 367—「シャコンヌ」「パ・スール」

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:(公財)富山県文化振興財団 富山県民会館

お問合せ:富山県民会館 TEL (076) 432-3115(平日9時～17時)、(076) 432-3111(平日17時以降、土日祝)

8/4(日) 4:00pm | フェスタ サマーミュージーザ KAWASAKI 2024

ミュージーザ川崎シンフォニーホール

指揮: 沼尻竜典 ヴァイオリン: 戸田弥生

ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

ブラームス (シェーンベルク編) / ピアノ四重奏曲 第1番ト短調 作品25

主催: 川崎市 / ミュージーザ川崎シンフォニーホール (川崎市文化財団グループ)

お問い合わせ: ミュージーザ川崎シンフォニーホール TEL (044) 520-0200

オーチャード定期

オーチャードホール

4/29(月祝) 3:30pm

指揮: クリストフ・エッセンバッハ ヴァイオリン: 岡本誠司

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調

ブラームス / 交響曲 第2番 二長調 作品73

横浜みなとみらいホール 大ホール

7/6(土) 3:30pm

出演者・曲目は7月7日と同じ

主催・お問い合わせ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ
名誉音楽監督：シャルル・デュワ
桂冠名誉指揮者：ヘルバルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀
第1コンサートマスター：郷古 廉
ゲスト・コンサートマスター：川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

○大宮臨太郎
○森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
侯野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

飯塚步夢
東條太河

ヴィオラ

○佐々木 亮
○村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

○辻本 玲
○藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志

村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

○吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

○甲斐雅之
○神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

○吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

○伊藤 圭
○松本健司
山根孝司

ファゴット

○宇賀神広宣
○水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

○今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

○菊本和昭
○長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

○古賀 光
○新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ
○植松 透
○久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、○首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢 陽一

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 平田恭佐
・ 相川直樹	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (一助)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (学)NHK 学園 理事長 等々力 健
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役 傍田賢治
・ AXL.BIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長 松本浩司
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 野口周一
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 内 聖美	・ (株)NHK ビジネスクリエイト 代表取締役社長 石原 勉
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ SMBC 日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二	・ (株)NHK プロモーション 代表取締役社長 有吉伸人
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行		

- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 南出貴弘
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 木原伸一
- ・(株)エルトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所
代表執行役社長 | 渡邊太門
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侖
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
代表取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎

- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 城田宏明
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都築 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本サイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会 共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)バルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロソ
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長 CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵

- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志

- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ROOM(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
- ・YCC(株)
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

小宮正安 (こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『リヒャルト・シュトラウス《ばらの騎士》』（もっときわめる! 1曲1冊シリーズ）、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』『コンスタンツェ・モーツァルト』『ヨハン・シュトラウス』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

広瀬大介 (ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス/楽劇 サロメ』『楽劇 エレクトラ』『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノート、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

堀 朋平 (ほり ともへい)

国立音楽大学・九州大学非常勤講師。博士(文学)。専門はシューベルトを中心とした19世紀音楽、音楽思想史。著書に『わが友、シューベルト』（令和5年度芸術選奨新人賞受賞）、訳書にヒンリヒセン著『フランツ・シューベルト——あるリアリストの音楽的肖像』、共訳書にボンズ著『ベートーヴェン症候群——音楽を自伝として聴く』など。住友生命いずみホール音楽アドバイザー。

(五十音順、敬称略)

Information

2024年4月からの コンサートマスターについて

2024年4月から下記の体制で臨みます。

特別コンサートマスター 篠崎史紀
第1コンサートマスター 郷古 廉
ゲスト・コンサートマスター 川崎洋介

1997年4月より「コンサートマスター」、2000年4月より「第1コンサートマスター」を務め、長年N響の顔としての重責を担ってきた篠崎史紀は、引き続き「特別コンサートマスター」として活動を続けます。

2022年4月より「ゲスト・アシスタント・コンサートマスター」、2023年4月より「ゲスト・コンサートマスター」を務めた郷古廉は、今後「第1コンサートマスター」として、新しい時代のN響をリードします。

またカナダ・オタワのナショナル・アーツ・センター管弦楽団のコンサートマスター、川崎洋介を、新たに「ゲスト・コンサートマスター」として迎えることになりました。

なお、2015年から「コンサートマスター」を務めてきた伊藤亮太郎は、契約期間満了により、2024年3月末で退任しました。

訃報

当団元ヴァイオリン奏者（1953年9月入団）で団友の武内智子（たけうち ともこ）氏が、2024年1月29日に逝去されました。享年94。ここに謹んで哀悼の意を表します。

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』2月号にて誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

Bプログラム（14日〔水〕、15日〔木〕サントリーホール）
アウグスティン・ハーデリヒ氏（ヴァイオリン）のプロフィール

22頁 第3段落 1行目／65頁 13～14行目

[誤] N響とは今回が初共演。／This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

[正] N響定期公演への出演は今回が初めて。／This is his first appearance in the NHK Symphony Orchestra subscription concert.

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ayumu Iizuka
- Taiga Tojo

Violas

- Ryo Sasaki
- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

Oboes

- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideo Kimura

(○) Principal, (☆) Acting Principal, (○) Vice Principal, (□) Acting Vice Principal, (#) Inspector

PROGRAM

A**Concert No.2007****NHK Hall**

April**13(Sat) 6:00pm****14(Sun) 2:00pm**

conductor**Marek Janowski****concertmaster****Wolfgang Hentrich**

◆ **Wolfgang Hentrich:** Wolfgang Hentrich is Concertmaster of the 1st violins in the Dresdner Philharmonie since 1996. He has played with the orchestra several times as a soloist, and numerous CD recordings attest to his musical output. He is director of the Philharmonic Chamber Orchestra, primarius of the Dresden String Quintet and the Carus Ensemble Dresden, and he is the chief conductor of the German Strings Orchestra since 2013. Wolfgang Hentrich holds a professorship at the Hochschule für Musik Carl Maria von Weber Dresden. He plays a violin by the Venetian Sanctus Seraphin from 1725, which was made available to him by the Dresden Philharmonic Society.

Franz Schubert
Symphony No. 4 C Minor D. 417,
***Tragische (Tragic)* [30']**

- I Adagio molto – Allegro vivace
- II Andante
- III Menuetto: Allegro vivace
- IV Allegro

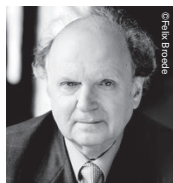
— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms
Symphony No. 1 C Minor Op. 68
[45']

- I Un poco sostenuto – Allegro
- II Andante sostenuto
- III Un poco allegretto e grazioso
- IV Adagio – Allegro non troppo, ma con brio

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Marek Janowski, conductor

Marek Janowski is a master of German music who is reaching the heights of maturity as he has aged. In 2016, he made his debut at the Bayreuth Festival at the age of seventy-seven, conducting Wagner's operatic tetralogy *Der Ring des Nibelungen*. And ever since his appearance at the Berliner Philharmoniker concert for the first time in 23 years in 2017, he has returned almost every year to guest-conduct the orchestra. He is

truly a late-matured great talent.

Marek Janowski was born in Warsaw in 1939, grew up in Germany, and studied under Wolfgang Sawallisch at the Hochschule für Musik und Tanz Köln. He served the positions at

Freiburg and Dortmund operas, the Orchestre Philharmonique de Radio France, the Orchestre de la Suisse Romande, the Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin and the Dresdner Philharmonie, and with the Staatskapelle Dresden, he recorded the complete *Ring Cycle* in the early 1980s.

He first worked with the NHK Symphony Orchestra in 1985, and since 2014, he appeared with the orchestra at the Spring Festival in Tokyo on *Der Ring des Nibelungen*, presenting one installment per year, all of which were received very warmly. After the completion, he and the orchestra continued to work on Wagnerian works such as *Die Meistersinger von Nürnberg*, while at the orchestra's subscription concert series, he made remarkable achievements by conducting works such as Beethoven's 3rd symphony *Eroica* in 2017 and Schubert's 8th symphony *The Great* in 2022. Naturally we look forward to seeing how Marek Janowski, known for his uncompromising music-making, will unfold Brahms Symphony No.1 with the NHK Symphony Orchestra.

[Marek Janowski by Haruo Yamada, music critic]

A

13 & 14, APR. 2024

Program Notes | Kumiko Nishi

Franz Schubert (1797–1828)

Symphony No. 4 C Minor D. 417, *Tragische* (Tragic)

Ever since Beethoven (1770–1827) unveiled his Symphony No. 5 (*Fate*) in 1808, C minor's connection with darkness and anguish has been an unconcealed fact in the symphonic sphere. The German giant of indomitable will led C minor to C major triumphantly in his No. 5 following the spirit of “per aspera ad astra (through hardships to the stars),” which obviously inspired Schubert's No. 4 and Brahms' undermentioned No. 1. Entitled *Tragische* (Tragic) by Schubert himself, No. 4 is the first of only two symphonies he set in a minor key along with the famous *Die Unvollendete* (Unfinished) in B minor.

Born in Vienna, Schubert was a precocious musical genius. His family introduced him to music before he enrolled the Stadtkonvikt (imperial seminary), where he studied composition. While in school, he became familiar with Classical works by Haydn, Mozart and Beethoven, and he performed in and conducted the seminary's student orchestra. He then entered the teaching profession, before composing the Symphonies No. 4 and No. 5 in 1816, his nineteenth year.

No. 4's opening movement has an ominous slow introduction. The faster main section in sonata form lets strings give the first theme, suggestive of Beethoven's C-minor String Quartet op. 18-4. The next slow movement is full of Schubertian tunefulness, while the third movement is a scherzo-like minuet with inventive rhythms. The symphony's finale, as with the first movement, witnesses C minor giving way to C major.

Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Schubert remained obscure all his life, his abovementioned No. 4 being premiered publicly more than two decades after his death as is often the case with his works. Brahms, in contrast, leaped into fame overnight at age 20, thanks to the glowing praise for him that the composer and critic Robert Schumann (1810–1856) released to the public in 1853.

Brahms, now a promising composer, began to gestate his first symphony around 1855. However, he felt extreme pressure to extend the symphonic history, which seemed to be already concluded by Beethoven the giant. Also due to his highly self-critical nature, Brahms completed his No. 1 over twenty years later in 1876, on top of that, he revised it next year after hearing the premiere. Everything comes to those who wait: the conductor Hans von Bülow famously applauded it as “Beethoven’s Tenth.” This work indeed shows the greatest respect for Beethoven’s legacy, at once being a veritable “Brahms’ First” of his own voice.

Although a product of the Romantic era, Brahms’ No. 1 has the almost same instrumentation as Beethoven’s No. 5. The austere introduction opens Brahms’ No. 1, stating the C/C-sharp/D motif over timpani pounding. This chromatic three-note motto would recur in diverse forms throughout the symphony following Beethoven’s meticulous motivic development. The absence of minuet/scherzo movement may surprise listeners familiar with the genre of symphony: here Brahms strikes out in a new direction proposing a brief graceful interlude prior to the last movement. The finale’s dark introduction beginning in C minor reaches the C-major “Alphorn melody” blown by horns: from Switzerland, Brahms had sent a birthday card with this melody to his muse Clara (Schuman’s wife) penning below it the following words: “High on the mountains, deep in the valleys, I greet you a thousand times!” The ensuing main sonata section could be likened to a hymn to C major, with the lyrical first theme bearing a great resemblance to Beethoven’s *An die Freude* (*Ode to Joy*) tune from his Symphony No. 9.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2009

Suntory Hall

April

24 (Wed) 7:00pm

25 (Thu) 7:00pm

conductor

Christoph Eschenbach

cello

Kian Soltani

concertmaster

Sunao Goko (first half) / Yosuke Kawasaki (second half)

Robert Schumann
Genoveva, opera Op. 81—
 Overture [9']

Robert Schumann
 Cello Concerto A Minor Op. 129
 [25']

- I Nicht zu schnell
- II Langsam
- III Sehr lebhaft

— intermission (20 minutes) —

Robert Schumann
 Symphony No. 2 C Major Op. 61
 [38']

- I Sostenuto assai – Allegro ma non troppo
- II Scherzo: Allegro vivace – Trio I, II
- III Adagio espressivo
- IV Allegro molto vivace

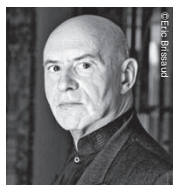
- All performance durations are approximate.

B

24 & 25, APR. 2024

Artist Profiles

Christoph Eschenbach, conductor



The air tightens when Christoph Eschenbach steps onto the podium. With his baton, he depicts works on a grand scale with deep insight, creating an exhilarating impression, however, there is always a sense of tension in the air, shrouding his music with a unique aura.

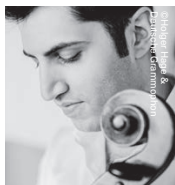
He started his career spectacularly as a pianist by winning major competitions including the ARD International Music Competition in Munich and the Clara Haskil Piano Competition in the early 1960s, however, since the 1970s, he has gradually shifted his focus into conducting. Until now, he has held key positions to lead the

world's renowned orchestras such as the NDR Sinfonieorchester (currently the NDR Elbphilharmonie Orchester), the Philadelphia Orchestra, the Orchestre de Paris, and the Konzerthausorchester Berlin, and is scheduled to become Artistic Director of the NFM Wrocław Philharmonic Orchestra in September 2024.

His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was in 1979 when he was a pianist playing Beethoven concerto under the baton of Günter Wand. In 2017, after an absence of thirty years, he returned to the orchestra as one of the world's most prominent conductors to conduct works including Brahms symphony. He has revisited the orchestra in 2020 and 2022 to present most intensive performances. So naturally, on this visit as well, he will brilliantly deliver works of Schumann and Bruckner, his favorite composers, to delight his audiences.

Christoph Eschenbach was born in Breslau, Germany (now Wrocław, Poland) in 1940. He lost his father in the war, and was brought up by his mother's cousin. He experienced war first hand while growing up with music. As he turned eighty-four this year, the world has become more and more volatile again. I wonder what he will emphasize to us with his music.

Kian Soltani, cello



Kian Soltani was born to a family of Persian musicians in Bregenz, Austria. He studied under Ivan Monighetti at the Musik-Akademie der Stadt Basel in Switzerland and went on further at the Kronberg Academy in Germany and the International Music Academy in the Principality of Liechtenstein. He served as Principal Cellist in the West-Eastern Divan Orchestra led by Daniel Barenboim, and was the recipient of the Credit Suisse Young Artist

Award, and the Leonard Bernstein Award at the Schleswig-Holstein Music Festival in 2017. His recordings with Daniel Barenboim include a collection of Beethoven's Piano Trios together with Barenboim's son Michael, and Dvořák's Cello Concerto with the Staatskapelle Berlin in 2020. In 23/24 season he is the Focus Artist of Tonhalle-Orchester Zürich and shared stages with Wiener Symphoniker, NDR Elbphilharmonie Orchestra, and Cincinnati Symphony Orchestra.

Schumann's *Fantasiestücke* and *Adagio und Allegro* in his debut album which he performed with full poetic expression will certainly compel us to hear his Shumann Cello Concerto with a great expectation. This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

He plays 'The London, ex Boccherini' Antonio Stradivari cello, loaned to him by the Beares International Violin Society.

[Christoph Eschenbach by Mitsunori Eto, music critic, Kian Soltani by Haruo Yamada, music critic]

Robert Schumann (1810–1856)

Genoveva, opera Op. 81—Overture

The German composer Schumann played a leading role in musical Romanticism. Although opting to be a musician, he took after his bookseller-author father in literary aptitude. Not surprisingly, Schumann's compositions owe a great deal to literature, the fine examples being *Papillons* and *Kreiseriana* for piano respectively inspired by Romantic writers Jean Paul and E. T. A. Hoffmann, not forgetting *Szenen aus Goethes Faust* (*Scenes from Goethe's Faust*) for voices and orchestra. The composer wielded a powerful pen as an influential music critic as well.

Unexpectedly, *Genoveva* is the sole opera Schumann completed while thinking in vain about over forty literary subjects for his operatic projects. Written in 1847–1848, *Genoveva* is a product of his Dresden years. (Incidentally, Wagner served as the conductor of the city's court opera from 1843 to 1849.)

The story, set in the 8th century, features the knight Siegfried (Count of Brabant) and his faithful wife Genoveva. He goes on a crusade leaving her in their palace under the protection of his steward Golo. Genoveva spurns advances of Golo who, now thirsty for revenge, informs Siegfried of Genoveva's framed-up affair with a servant. After ordering her execution, Siegfried discovers Golo's intrigue and is reunited with Genoveva who narrowly escaped death. Introducing some of the leitmotifs (recurrent melodies associated with a certain character, emotion, etc.) used in the ensuing opera, the overture in sonata form has the ominous preamble with the violins' grievous descending melody. The C-major vigorous conclusion foretells the positive outcome of the tragedy.

Robert Schumann

Cello Concerto A Minor Op. 129

A core of the sparse but popular repertoires for solo cello and orchestra alongside Haydn's and Dvořák's, Schumann's Cello Concerto has been praised for its natural, masterly treatment of the solo instrument. It is partly because he was knowledgeable about this instrument as he took cello lessons in his childhood.

Schumann finished the draft of the Cello Concerto in 1850, soon after settling in Düsseldorf as the welcome new municipal music director. This bright moment brought a mental stability for a little while to him who chronically suffered severe — sometimes life-threatening — depression throughout his adult life.

Originally entitled *Konzertstück* (*concert-piece*) by the composer himself, the work indeed makes itself conspicuous among the standard 19th-century solo concertos focusing on contrast and even confrontation between solo and orchestra parts. Here the soloist, never technically ostentatious, teams up with the orchestra, the most symbolical example being a duet between the solo cellist and the orchestra's principal cellist in the slow mellifluous middle movement. Moreover, all the three movements are performed seamlessly without pause, being linked by the recurrent three-chord motif (resounding E–A–C melody) introduced at the outset of the work. Other unconventional features as solo concerto are the first movement's moderate tempo, its lack of extended orchestral introduction and its absence of cadenza (virtuosic passages

performed by soloist usually without orchestra): instead, the lively final movement has a cadenza (yet accompanied) heard immediately before the uplifted A-major ending.

Robert Schumann

Symphony No. 2 C Major Op. 61

Every composition of Schumann is certainly a landmark achievement in music history. Also, his foresighted devotion as an active critic introduced Chopin, Brahms and other young geniuses straightaway to his contemporaries. Another service we owe to Schumann is that he saved Schubert (1797–1828)’s monumental symphony (*The Great* D.944) from oblivion and arranged for its first public performance (1839) in Leipzig under Mendelssohn’s baton. This historic event and Schumann’s insightful article about the work led to proper evaluations of the Viennese master.

Schumann attended in December 1845 in Dresden, then his base, a performance of *The Great*. This is thought to be a source of the irresistible creative impulse for him to set to work on a new composition. Completed thus in 1846, Schumann’s Symphony No. 2 in C major — the same home key as *The Great* — was premiered the same year in Leipzig under Mendelssohn’s baton as with, again, *The Great*. (Shortly after, the first and last movements were revised.)

At an early stage of composition, Schumann, who just recovered from a serious nervous breakdown, tells Mendelssohn in a letter that trumpets have been blasting in his head. In truth, the slow opening brass fanfare of the Symphony No. 2 lets “trumpets” persistently resound a dotted motto (a brief motif including an ascending fifth interval: C–G). The lively main sonata section of the first movement immediately recalls this motto, as it is embedded in the principal “galloping” theme with dotted and double-dotted rhythms. The second movement, a wild scherzo unconventionally in duple time, has trumpets and horns grandly blow the motto at the end. The next slow movement in C minor, frequently pointed out to be inspired by J. S. Bach and his contrapuntal style, is the only movement untouched by the motto which recurs repeatedly throughout the symphony. The final movement, a freely treated sonata with an exceptionally extended coda, has a hymn-like climax making the motto return, before timpani powerfully leads the orchestra to the symphony’s jubilant finish.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

B

24 & 25, APR. 2024

PROGRAM

C

Concert No.2008

NHK Hall

April

19 (Fri) 7:30pm

20 (Sat) 2:00pm

conductor

Christoph Eschenbach | for a profile of Christoph Eschenbach, see p. 59

concertmaster

Yosuke Kawasaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 19th from 6:45pm / Saturday 20th from 1:15pm

Yumi Yoshimura(ob.), Izumi Tsuboike(ob.), Hitoshi Wakui(ch.)

Beethoven / Trio for 2 Oboes and English Horn C Major Op. 87—1st Mov.

* You may enter and leave as you please during the performance.

* Enjoy chamber music from your own seat.

The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth

Anton Bruckner

Symphony No. 7 E Major [64']

I Allegro moderato

II Adagio: Sehr feierlich und sehr langsam

III Scherzo: Sehr schnell

– Trio: Etwas langsamer

IV Finale: Bewegt, doch nicht schnell

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

Program Note | Kumiko Nishi

Anton Bruckner (1824–1896)

Symphony No. 7 E Major

December 30, 1884 was no doubt the best day in the musical life of the Austrian late-Romantic composer Bruckner. On that day, the sixty-year-old man's Symphony No. 7 was world-premiered in Leipzig by Arthur Nikisch leading the Gewandhaus Orchestra to be an immense success. The work's ensuing premieres in Munich and Vienna also won rave reviews. No. 7

C

19 & 20, APR. 2024

thus brought the first genuine fame to Bruckner, a late bloomer who had had to long put up with cold treatment of his symphonies until then.

Another red-letter event in his life was his first meeting with Wagner (1813–1883) in May 1865 when the latter was in Munich for the scheduled premiere of his *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*). For Bruckner who was a devout Christian, his idol Wagner was, so to speak, his second divine being. In 1873, the younger man famously visited the German master and dedicated him his Symphony No. 3.

Although Wagner's influence is seen here and there in Bruckner's output, it is particularly hard to describe his No. 7 without repeating Wagner's name. The second Adagio movement in rondo form is worth specially mentioning on this, as it is a funeral music for Wagner. Bruckner penned this elegiac Adagio knowing that the maestro was critically ill. Cast in A–B–A–B–A form, it announces at the start the solemn A-section's theme with a small ensemble including four Wagner tubas (in two sizes). Usually performed by horn players, these oval-shaped brass instruments were invented on the initiative of Wagner for his tetralogy *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*). Bruckner's radiant B-sections, in major keys, sound as if to honor Wagner for his achievements. And furthermore, according to Bruckner's recollection, he, crushed with grief by being told about Wagner's death (February 13, 1883), wrote the coda featuring four Wagner tubas to mourn for the dead.

No. 7 begins with the seemingly endless melody sung mainly by cellos over the strings' quiet tremolo (tremulous effect), Bruckner's usual trick to open his symphonies. This long introspective melody, given as the first theme of the opening sonata movement, would change into several important themes of the entire symphony as a unifying element. The outset of the last movement, for example, lets the violins reintroduce the unifying melody as its first sonata theme, in jolly bouncing rhythm this time, but still over the strings' quiet tremolo. This colossal symphony concludes forcefully recalling the beginning of the whole work as if it came full circle, or more specifically, restating the fragmentary unifying melody three times.

Twelve years after No. 7 was first performed, Bruckner passed away in Vienna at age 72. His funeral attendees heard the symphony's Adagio movement arranged for four horns. And at the entombment, one of Bruckner's organ pupils improvised on themes from Wagner's *Parsifal*.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

The Subscription Concerts Program 2023–24

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024 05	A	Concert No. 2010 May 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Panfili <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere] Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>) Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>) Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>) Fabio Luisi, conductor *Program order of the concert has changed from initially announced.	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	B	Concert No. 2012 May 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i> Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2011 May 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i> —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i> Fabio Luisi, conductor	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 06	A	Concert No. 2013 June 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24 Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29 Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	B	Concert No. 2015 June 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Webern Passacaglia Op. 1 Schönberg Violin Concerto Op. 36 J. S. Bach / Webern Ricercata Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485 Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2014 June 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Ibert <i>Escales (Ports of Call)</i> Ravel Piano Concerto for the Left Hand Debussy <i>Nocturnes</i> * Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 09	A	Concert No. 2016 September 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm NHK Hall	The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth Bruckner Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887) Fabio Luisi, conductor	Ordinary Youth S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
		B	Concert No. 2017 September 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Schubert <i>Overture in the Italian Style</i> No. 2 C Major D. 591 Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54 Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92 Fabio Luisi, conductor Hélène Grimaud, piano	Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
			C	Concert No. 2018 September 27 (Fri) 7:00pm 28 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Tchaikovsky <i>Variation on a Rococo Theme</i> , Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)* Tchaikovsky <i>The Swan Lake</i> , ballet Op. 20 (Excerpts) Tadaaki Otaka, conductor Rei Tsujimoto (Principal Cello, NHKSO), cello*
2024 10	A			Concert No. 2020 October 19 (Sat) 6:00pm 20 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Honegger Symphony No. 3, <i>Liturgique</i> Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98 Herbert Blomstedt, conductor
		B		Concert No. 2019 October 10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Sibelius <i>4 Legends</i> , sym. poem— <i>The Swan of Tuonela</i> Nielsen Clarinet Concerto Op. 57 Berwald Symphony No. 4 E-flat Major, <i>Sinfonie naïve</i> Herbert Blomstedt, conductor Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet
			C	Concert No. 2021 October 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete (Unfinished Symphony)</i> Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944, <i>Große (The Great)</i> Herbert Blomstedt, conductor
2024 11	A			Concert No. 2022 November 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Roussel <i>Bacchus et Ariane</i> , ballet Op. 43—Suite No. 1 <i>(Bacchus and Ariadne)</i> Bartók Piano Concerto No. 3 Ravel <i>Valses nobles et sentimentales (Noble and Sentimental Waltzes)</i> Debussy <i>Images for Orchestra—Iberia</i> Kazuki Yamada, conductor Francesco Piemontesi, piano
		B		Concert No. 2024 November 21 (Thu) 7:00pm 22 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Tchaikovsky Violin Concert D Major Op. 35 Prokofiev <i>The Tale of Stone Flower</i> , ballet <i>—The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite</i> Stravinsky <i>Symphony in Three Movements</i> Dima Slobodeniouk, conductor Nikita Boriso-Glebsky, violin
			C	Concert No. 2023 November 15 (Fri) 7:00pm 16 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Tannhäuser</i> , opera—Overture Weinberg Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94 Shostakovich Symphony No. 5 D Minor Op. 47 Andrés Orozco-Estrada, conductor Reinhold Friedrich, trumpet

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

A

NHK Hall

Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)2024
12

A

Concert No. 2025

Nov. 30 (Sat)
6:00pmDec. 1 (Sun)
2:00pm- The 1st day concert
of the December
subscription Program A
will be held in November.

NHK Hall

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Birth

Wagner *Tristan and Isolde (Tristan and Isolde)*—*Prelude and Liebestod*R. Strauss *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)*R. Strauss *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)*R. Strauss *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)*R. Strauss *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)*R. Strauss *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)*Schönberg *Pelleas and Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)

Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano*

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B

Concert No. 2026

December

5 (Thu) 7:00pm

6 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Smetana *The Bartered Bride*, opera—*Overture*

Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30

Mussorgsky / Ravel *Pictures at an Exhibition*, suite

Fabio Luisi, conductor

Nelson Goerner, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. 2027

December

13 (Fri) 7:00pm

14 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liszt *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)Liszt *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*(*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)*

Fabio Luisi, conductor

James McCorkle, tenor* Tokyo Opera Singers, male chorus*

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025
01

A

Concert No. 2028

January

18 (Sat) 6:00pm

19 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B

Concert No. 2030

January

30 (Thu) 7:00pm

31 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*,opera—*Introduction, Gopak*

Bartók Violin Concerto No. 2

Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88

Tugan Sokhiev, conductor

Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. 2029

January

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Stravinsky *Pulcinella*, ballet

Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2025
02

A

Concert No. 2031

February

8 (Sat) 6:00pm

9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Zemlinsky *Sinfonietta*, Op. 23

R. Strauss Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11

Dvořák *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110Janáček *Sinfonietta*

Petr Popelka, conductor

Radek Baborák, horn

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B

Concert No. 2032

February

13 (Thu) 7:00pm

14 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart *Vado, ma dove?*, aria K. 583*Mozart *Alma grande e nobil core*, aria K. 578*

Mozart Symphony No. 25 G Minor K. 183

Mozart *Bella mia fiamma, addio*—*Resta, oh cara*,

recitative and aria K. 528*

Schumann Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie*

Petr Popelka, conductor Ema Nikolovska, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. 2033

February

21 (Fri) 7:00pm

22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Suppé *Leichte Kavallerie*, operetta—*Overture (Light Cavalry)*

Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61

Suppé *Dichter und Bauer*, operetta—*Overture (Poet and Peasant)*Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (*Parisian Gaiety*) (Excerpts)

Tatsuya Shimono, conductor

Fumiaki Miura, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025
04

A	Concert No. 2034	Berlioz <i>Harold en Italie</i> , symphony (<i>Harold in Italy</i>)* Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
	April 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor Antoine Tamestit, viola*		
B	Concert No. 2035	Stravinsky <i>Petrushka</i> , ballet (Complete, 1947 Version) Britten Piano Concerto Op. 13 Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> , symphonic suite Op. 33bis	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	April 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Benjamin Grosvenor, piano		
C	There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.			

2025
05

A	Concert No. 2036	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 Mahler Symphony No. 3 D Minor	Ordinary S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	Youth S 7,000 A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
	April 26 (Sat) 6:00pm 27 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Olesya Petrova, mezzo soprano Tokyo Opera Singers, female chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus		
B	Concert No. 2037	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler) Berg Violin Concerto Mahler Symphony No. 4 G Major*	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	May 1 (Thu) 7:00pm 2 (Fri) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*		
C	Concert No. 2038	Schubert <i>Rosamunde</i> , overture Dohnányi <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25* R. Strauss Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> (<i>The Woman without a Shadow</i>) R. Strauss Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> (<i>The Rose-Bearer</i>)	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	May 30 (Fri) 7:00pm 31 (Sat) 2:00pm	Giedrė Šlekytė, conductor Mao Fujita, piano*		

2025
06

A	Concert No. 2039	Rimsky-Korsakov <i>May Night</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43* Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	June 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm	Vladimir Fedoseyev, conductor Yulianna Avdeeva, piano*		
B	Concert No. 2040	Ibert Flute Concerto Bruckner Symphony No. 6 A Major	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	June 12 (Thu) 7:00pm 13 (Fri) 7:00pm	Juanjo Mena, conductor Karl-Heinz Schütz, flute		
C	Concert No. 2041	Korngold Violin Concerto D Major Op. 35 Mahler Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	June 20 (Fri) 7:00pm 21 (Sat) 2:00pm	Tarmo Peltokoski, conductor Daniel Lozakovich, violin		

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも



アプリで便利に！

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域によっては一部番組が配信不可

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※ 放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！

聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ! 音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組みなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨、

山本大心 ヴィオラ：和田志織 チェロ：渡邊ゆかり
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：浦畑尚吾
(2024年4月1日現在)

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じての現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたざさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

琴を奏でる、はにわ男子と出逢う



骨董・古美術月刊誌

「目の眼」

毎月 15 日発売 | 1,650 円税込

4 月号

土偶とはにわ

古代日本の表情

5 月号

春の鑑賞陶磁入門

目の眼ウェブマガジンでも
情報をお届けしています

menomeonline.com



『目の眼』4月号掲載

重要文化財 埴輪弾琴男子倚像

前橋市朝倉町出土 全高 72.6cm 相川考古館

ソリストは数々の国際コンクールを制覇してきた実力派の木嶋真優。
名器ストラディヴァリウスで得意とするハチャトウリアンを披露します。
指揮者は注目の若手、坂入健司郎がN響初登場。人気交響曲のシヨスタコーヴィチ第5番をどう聴かせるか注目です。
珠玉の名曲と極上の演奏を求め、新緑あふれる上野の森へ出かけませんか？

ゴールデンウィークは、
新緑あふれる上野で極上の演奏を楽しもう！
日本最高峰のオーケストラが贈る

指揮：坂入健司郎
ヴァイオリン：木嶋真優
管弦楽：NHK交響楽団

2024

響

ゴールデン・クラシック

ハチャトウリアン：ヴァイオリン協奏曲 二短調
シヨスタコーヴィチ：交響曲第5番 二短調 op.47

2024年5月3日(金・祝) 15:30開演(14:45開場)

東京文化会館 大ホール S 8,000円 A 7,000円 B 6,000円 C 5,000円 D 4,000円(税込)

チケットの
ご予約

- 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp>
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/nhkso-goldenclassic/> (Pコード:256-829) セブン-イレブン
- ローソンチケット <https://t-tike.com/nhksogolden2024/> (Lコード:34691) ローソン、ミニストップ店内Loppi
- イープラス <https://eplus.jp/nhkso-golden2024/> FamilyMart店舗

お問合せ：サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00) ※チケットの取扱はございません



主催：MIYAZAWA & Co.

※未就学児童の入場不可。※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。

指揮：ペーター・ルンデル★

Peter Rundel, conductor

ハープ：グザヴィエ・ドゥ・メストレ

Xavier de Maistre, harp

ピアノ：フランソワ・フレデリック・ギイ

François-Frédéric Guy, piano

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

★本公演で当初指揮を務める予定だったペーテル・エトヴェシュ氏は本人の都合により来日できなくなりました。代わりにペーター・ルンデル氏が出演いたします。

NHK SO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

N響 MUSIC TOMORROW 2024

May 28 (Tuesday) 7:00pm
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2024年5月28日 火 7:00pm

東京オペラシティ コンサートホール

毎年(Music Tomorrow)で演奏される「尾高賞」(N響制定)の受賞作品として今回選ばれたのは、湯浅譲二の『打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌」』。湯浅の作品が同賞を受賞するのは5回目である。玲子夫人を喪った悲しみを乗り越えようともがく湯浅が一音一音に込めたエネルギーと、人間的で温かい眼差しが聴く人の心をつつ。湯浅は1970年の大阪万博で、2つのパリオンの音楽を担当していたが、このときドイツ館で演奏していたシュトゥックハウゼンのアンサンブルのメンバーに、その後作曲家・指揮者として大成したペーテル・エトヴェシュがいた。「ロシア・アヴァンギャルド」の芸術家、マレーヴィチ(1879-1935)の抽象絵画を題材にした『マレーヴィチを読む』では、種々の楽器を知り尽くしたエトヴェシュの熟練の技が、色彩感に富んだ絢爛たる響きを作り出す。『ハープ協奏曲』は、今年80歳を迎えた作曲家の活気と躍動感にあふれた新作。世界的名手グザヴィエ・ドゥ・メストレの妙技が冴えわたる。エトヴェシュはかつて、トリスタン・ミュライユの代表作となった『デンテラグランシオン』(1982-83)の初演を指揮していた。音響を分析し作曲するスペクトル音楽派の中核を担ったミュライユは、理論的な創作手法にもかかわらず、水や風といった自然をしばしば発想の源とする。煌びやかな音と瑞々しい抒情が魅力的なピアノ協奏曲『嵐の目』のソリストは、作曲者が厚い信頼を寄せるフランソワ・フレデリック・ギイ。エトヴェシュに学んだ現代音楽に定評ある指揮者、ペーター・ルンデルの鮮やかな手腕にも期待したい。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

尾高賞授賞式・プレトーク
6:30pm

エトヴェシュ／マレーヴィチを読む(2018) [日本初演]

Eötvös / Reading Malevich (2018) [Japan Première]

湯浅譲二／打楽器、ハープ、ピアノ、弦楽オーケストラのための「哀歌(エレジー)——for my wife, Reiko——」(2023)

[第71回「尾高賞」受賞作品]

Yuasa / An Elegy —for my wife, Reiko—, for Percussion, Harp, Piano and String Orchestra (2023) [The 71st Otaka Award Work]

エトヴェシュ／ハープ協奏曲(2023)

[NHK交響楽団 / フランス放送フィルハーモニー管弦楽団 / ベルリン放送管弦楽団・合唱団有限公司 / スイス・ロマンド管弦楽団 / ウィーン楽友協会 / ホルト・カー・ザムシク共同委嘱作品・日本初演]

Eötvös / Harp Concerto (2023) [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, Rundfunkorchester- und Chöre GmbH (Berlin), Orchestre de la Suisse Romande, Wiener Musikverein, and Casa da Musica (Porto) / Japan Première]

ミュライユ／「嵐の日」——ピアノとオーケストラのための幻想即興曲(2022)

[NHK交響楽団 / ラジオフランス / BBCラジオ3 / NDR エルブフィルハーモニー管弦楽団 共同委嘱作品・日本初演]

Murail / L'œil du cyclone, fantaisie-impromptu for piano and orchestra (2022)

[Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Radio France, BBC Radio 3, and NDR Elbphilharmonie Orchester / Japan Première]

チケット発売中

チケット料金(税込)

- ◎ 一般 | S:3,500円 / A:2,500円 / B:1,500円
- ◎ ユースチケット(25歳以下) | 全席種:500円
- ◎ WEBチケットN響 特別料金 | S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

- ※悪い声についてはN響ガイドにお問い合わせください
- ※発券期会員先行発売の取り扱いには、WEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の営業日前までとなります
- ※未就学児のご入場はお断りしています

- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド: 0570-02-9502
- ・東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- ・チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- ・e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ・ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



WEBチケットN響

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (定休日: 土日・祝日)

- ※主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am ~ 開演時刻まで営業いたします。
- ※発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業となります。
- ※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK / NHK交響楽団
共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
助成: 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on



N響

NHKSO DRAGON QUEST CONCERT

ドラゴンクエスト
コンサート

～そして伝説へ…～



指揮：下野竜也 (N響正指揮者)

管弦楽：NHK交響楽団

2024年5月6日 [月・休] 4:00pm

東京芸術劇場 コンサートホール

(池袋駅西口 徒歩2分) 2時間程度の公演です

主催：NHK交響楽団

提携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

協力：株式会社スクウェア・エニックス / スギヤマ工房 有限会社

© ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SPIKE CHUNSOFT/SQUARE ENIX

発売開始日 2024年3月15日 [金] 10:00am (一般発売)
2024年3月11日 [月] 10:00am (定期会員先行発売)

料金 全て税込 / 全席指定

	S席	A席
一般	¥9,000	¥8,000
ユースチケット(25歳以下)	¥4,500	¥4,000

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 www.geigeki.jp/t/チケットぴあ pia.jp/t/nhksoe+(イープラス) eplus.jp/nhksoローソンチケット t-tike.com/nhkso

[第1部]

すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストⅤ」 天空の花嫁
—「序曲のマーチ」エルガー / 組曲「子どもの魔法のつえ」第1番
—「序曲」「メヌエット」「妖精と巨人」すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストⅣ」導かれし者たち
—「海図を広げて」「栄光への戦い」ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)
—「カッチェイ王の魔の踊り」「こもり歌」「終曲」

[第2部]

すぎやまこういち / 交響組曲

「ドラゴンクエストⅢ」そして伝説へ…

(1987年N響録音版・全曲)

※ユースチケット(25歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用前に年齢確認のためのコース登録が必要です。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引(先行発売)のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※定期会員先行発売期間中は予定枚数となり次第、受付を終了いたします。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児のご入場はお断りしています。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm (休休日：土・日・祝日)

Follow us on

nhkso.or.jp


脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社